

官の許可を得て登記をする。組合員の出資は一口以下三十口以内でなくてはならない。組合の組織には無限責任組合と保証責任組合と有限責任組合とがある。

産業組合

種類

産業組合には左の四種類がある。

一、信用組合 組合員に産業に必要な資金を貸しつけ、且つ貯金の便宜を得させる目的で設けられたもので、産業組合中最も古く、また最も發達したものである。

二、販賣組合 組合員の生産した物に加工し、又は加工しないで賣却するのが目的で、つまり共同販賣にして中間の手数を省いて利益を得ると同時に危険のないやうに、又粗製濫造を戒めやうとするものである。

三、購賣組合 産業又は生活に必要な物を買入れて、これを組合員に賣却する目的のもので、原料、機械、器具、食料品、被服品、その他日用品等の品質の優良なものを安く買入れ、生産費や生活費の節約をしやうとするもので、信用組合と共に早くから行はれ、またこれと並んで發達した。

四、利用組合 組合員に産業や生活に必要な設備を利用させることを目的としたもので、廣い建物や新しい機械などは個人で設備することは困難であるから、組合員合同の資本でこれを備へて、それを適宜に利用する仕組みである。

實業青年の資格

新時代が實業家としてどんな資格を備へた青年を要求してゐるかといふことは、國家又は社會にとつても極めて重要な問題であると同時に、青年自身にとつても大切な問題である。

一體實業家といふものは、いかなる人を指すのであるか、先づ實業家の意義を定めて置かねばならぬ。世間では實業家と金満家と資本家とを混同することが多いが、この三つは全く異つた性質のものである。

金満家は一名富豪ともいはれ、巨萬の富と財を所有してゐるもので、共

實業家
金満家
資本家

の富と財を社會のために、又は生産のために活用してゐると否かは問はない。たゞ多くの財産を所有さへしてゐれば、それで金満家たる資格は備はつてゐるのである。資本家は自己の所有する富と財を社會に提供して、生産のためにそれを利用してゐるもので、財貨を生産の利用に供してゐるものは、すべて資本家である。將來の富を造り出すべく、自己の富を社會に提供することが、資本家たるの要件になる。その提供した富の分量の大なるこ小なるこには關係はない。たゞひ十圓の資本でも、これを生産に提供したならば、其の人は十圓の資本家である。世には大なる資本でなければ資本家でないやうに考へるものもあるが、それは誤りであつて、資本家たるには必ずしも巨萬の富を所有する必要はない。

實業家の本務

實業家は右の二つより少し性質が違つてゐる。實業家たるには自ら富と財を所有することを必要としない。又自ら資本を生産のために提供することも必要としない。資本家の提供した資本を運用して事業を經營し、業務を行ふことが實業家の本務である。實際の場合において、實業家自身が我

が資本を提供して事業を行ふことが多いのであるが、しかし其の場合においての資本金は、資本家として資本を提供したのであつて、それは實業家たる性質には何等の交渉はない。實業家たるには事業を經營するの一事で、其の資格は備はつてゐると言へるのである。

金満家が所有の富を死藏してゐるのは、其の人のためにも不利であり、社會に對しては不親切なやり方である。又資本家のみあつても、其の資本は社會のためにも資本家のためにも有益な効果は現はさない。實業家の協力を得て、其の資本が有益に働くことになるのであるから、資本家と實業家は常に提携し、結合して働くべき地位にあるのである。

さて實業家たるにはどんな資格が必要であるか。即ち資本家の提供した資金を活用して事業を遂行するには、いかなる資格を備へた人が最も適任であるか、適材であるかといふに、實業志望の青年即ち實業家の候補者として第一に備ふべき要件は、仕事に對して忠實なこゝである。自分の擔任した業務を勉強する上に、業務を覚え込む熱心が必要である。青年が銀行

仕事に忠實

身體の強健

や會社で月給を貰つて業務を行ふ場合に、たゞあてがはれた仕事を運んで行くだけでは足りない。進んで其の仕事の性質をよく研究し、よく考慮して、其の真相を理解して覚えてしまふやうにせねばならぬ。將來自分が獨立して事業を営む場合に、成功するだけの智識と經驗を養はねばならぬ。第二の資格としては身體の強健が必要である。社會組織の複雑な現代においては、又産業經濟の發達した今日の事業界においては、實業家たるものが病弱のために仕事を怠るやうなことが決してあつてはならぬ。いかなる種類の事業でも今日は組織が複雑であつて、成功に達する迄には多大の勞務と、長き年月を必要とする。いかに才智の傑れた人でも、又いかに大なる資本をもつてゐても、一足飛びには事業の成功を期することは出來ない。數多の競争者を相手にして奮闘努力を続けねばならぬのであるから、格別大きくない仕事でも、成功の目的を達するまでには相當の年月を要する。それには事業遂行の局に當る實業家たるものは、健康を保つことが一番必要で、病弱のために仕事を怠つたり、又は他人に仕事を任せねばならぬやうになると、十中の八九は事業の失敗となり、幸ひに失敗はせずとも發達進歩は望み得ない。

學問智識

大量生産
能率の向上

第三の資格としては相當の學問智識を有することである。現在の實業は商工を問はず、進歩發達の結果事業を完全に遂行するには、必ず學術技藝の應用が加はつてゐる。殊に最近の傾向として大量生産とか、能率の向上とかいふことが、最も強力な競争武器の一つになつてゐる。これ等は學問の應用によつて初めて其の目的を達し得られる。夫れ故事業經營の必要上、

仕事は専門的に分化されて行はれ、仕事の全部を總括して行ふよりも、むしろ部分／＼に深く細かく行ふことが必要になつて來た。そこで常識だけでは仕事の完成は困難で、實業家は一局部の技術や理論についてまでも、相當の理解をもたねばならぬ。自分で専門の學識をもたなくともよいが、少くとも専門家の説明を聞いて、其の要點をつかみ得るだけの理解力をもつてゐねばならぬ。さういふ場合に相當の學問智識あるものは、其の學力が應用されて、容易に要點を理解して、仕事の經營を誤まらず進めて行く

ことが出来る。殊に近來實業に關する發明が有力な地位を占めてゐる。新しい發明を活用することが、實業家の事業に成功するに失敗するの岐かれ目になることもある。巧みに發明を促へて、これを自分の事業に利用するには、自分が其の利害得失を判断し得るだけの學問の素養がなければならぬ。常識も固より必要であるが、尙ほ其の上に學問智識を必要とするわけである。

一代一業主義

精力の集注

第四の資格としては一つの事業に全力を集注することである。一代一業主義を守る事である。即ち一つの事業に對して一生を捧げる意味である。常に心と力を仕事に集注させて、脇目もふらず勤勉する事が必要である。殊に近來事業の規模が次第に大きくなり擴がつて行く時代においては、殊に精力の集注といふことが成功の要件となつて來る。いかに精力に富み、體力が強きとも、多くの仕事に力を分ける事は、危険であり不利益である。さういふ場合にはどの仕事に必ず油斷が生じ、忠實を欠くことになり、事業の上に缺陷を招くことになる。事業に全力を集注することは、自分の

力を最もよく活用したことになる。一つの事業に一生を捧げることは、最も有益に其の人の努力を費したことになる。大なる事業を遂行して成功を収めた人は、殆ど例外なしに一人一業の主義を守つた人の中に發見することが出来るのである。

時代精神の理解

舉國一致

共存共榮

第五の資格としては時代精神を理解することである。昭和の新時代において實業家たらんとする青年は、是非ともこれをよく理解して、時代に適合した活動をしなければならぬ。昭和の時代精神といふのは昭和元年の朝見の御式において新帝陛下の下し賜ひたる勅語の中に示し給ひし如く、舉國一致、共存共榮、即ち國民全體が共同一致心を合はせ、各自其の分を盡すといふことが、新時代精神の眼目である。協同一致といふことは最近における世界の一大風潮になつてゐる。世界大戰後國富の恢復、民力の増進を圖る必要上、國民全體が協力一致して時局を處理せねばならぬ。經濟の整理をせねばならぬことを自覺して來たのである。今や世界の有力なる國々は、それ／＼舉國一致、共存共榮の精神によつて、國策と政策を進めつゝ、

あるのである。我國としても世界の經濟舞臺に立つて、勢力を張らねばならぬ今日の狀態においては、是非とも國民が協力一致して、一團となつて諸外國に對せねばならぬ形勢になつてゐる。舉國一團となつて外部に對抗し、商は商、工は工、農は農、各種の實業階級は各々協力一致して、其の事業の基礎を強固にすること、國富の増進を促すことに、最大の努力を拂はねばならぬ機運になつてゐる。實業界の各方面が互に分立割據して、銘々の利害にのみ心を奪はれたならば、經濟戰に敗れることは疑ひない。經濟の戰爭は益々激烈の度を高めつゝあるが、武力の戰爭と同じく協同一致して團體行動をこつて敵に當ることが、戰術上欠くべからざる要件である。身を實業界に置かんとするものは、先づ第一に共存共榮、共同一致の時代精神をよく理解して、實業の發達増進に全力を傾注することを心掛けねばならぬのである。殊に昭和の今日に於て最も活動すべきは實業家である。過去の日本政治は政治家の政治であつたが、次第に進歩して經濟家の政治、實業家の政治に轉步せんとしてゐるのである。

教育篇

普通教育

教育の目的は國家といふ大きな見地から言へば、國家をして完全な人格體とするために、國民各個をして完全な人格を具へしむるにある。これがために一面完全な國家教育を行ふと同時に、一面個人の自由な發達の要求に應ずべき教育を行ふことが必要である。我が帝國の理想精神と國民性とは、これが善美な發達をする力があるのであるから、教育の目標を常に此處に置き、これに基いて適切な方法を設け、我が國體の精華をして永遠に輝かしめなければならぬ。我が國民性本來の美點を養つて、これを無限に向上せしめ、且つ個人の活動力を強大ならしむることを期すべきである。更に進んで世界に於ける我が帝國の使命を自覺し、これを遂行して帝國

教育年齢

の世界的發展を全うするに足る國民を養成することにである。

教育は幼年期から少年期、青年期と連續して分つ事の出来ないものであるが、年齢に應ずる精神發達の狀態と、境遇に應ずる職業選擇の要求とによつて、一切の生活と性能に對する一般的教育から、次第に特殊の性能及び職業に對する分化的教育に進むのであるが、一般的教育は主として年齢の少い時代に於て行はれ、分化的教育は主として年齢の多い時代になつて行はれる。然して一般的教育を主とするのを普通教育といひ、分化的教育を主とするのを専門教育といふ。なほ學生の性能上からこの二つの特色をいへば、普通教育では特殊性能の個性的發見を主とし、専門教育ではその性能の職業的完成に努むるにある。

普通教育

普通教育は各人に對し一般的教育を施すことを主とする教育であるが、この教育は特殊の性向、趣味、才能等を對象とせず、一切の性向、趣味、才能の全體を對象とし、これをすべて平等に發達させる事業であつて、教師は各學生特殊の性向、趣味、才能を發見して、各自に適當な發展方法を

特質

示し、且つ學生をして現在發達學習の經驗によつて、將來いかに自ら發達學習すべきかを理解させ、自己の使命、天職を自覺させ、社會生活において効果を現はす方法を自得させることを以て目的とする教育である。

一、普通の健全な人の性能は、幼年期にあつてはぼんやりしてゐて分化作用が明かでないが、成長するにつれて段々分化して、人々特殊の性格を生じ、特殊の趣味才能を現はす。そこで特殊の性能を豫定しないで、一般的に教育を施すのは、主として幼年少年時代であるのが至當の順序であるから、普通教育は主として幼年少年期に行はれる。

境遇

二、普通教育では人が現在の境遇に處し、生命の實現をなすに必要な性能發達の機會を與へる。即ち國民として社會の一員として具へてゐるべき共通の資格、家庭生活をなすに必要な智徳を養ひ、學生をして境遇に應じて、各自が有効に發達することの出来る方法を知らしめる。故に何人でも人たる以上は、必ず要求し、必ず通過すべき教育である。

個性

三、普通教育は各個人のもつてゐる個性を發達させる機會を與へる。即

人格的生命

ち各個人の個性を完全にするに必要な精神的肉體的の諸要素を充分に發達させ、各個人をして各特殊の人格として獨立する方法を自得させ、各自の使命、天職を自覺させる。

四、普通教育は人の個性、趣味、才能、體質等の一つの人格的生命を實現するに必要なものに對しては、その發見及び發達の機會を與へる。

五、普通教育は社會のすべての生活の要求に對し、これに適合する人格的要素を提供し、その進歩改善の動力となるやうにする。

普通教育はつまりすべての人に對し、又すべての性能に對し、平均に發達の機會を與へ、これを社會的に有効ならしめる方法を教へるものである。

機關

普通教育の機關

普通教育を小學校と中學校及び高等女學校等に分け、或る年齢を以て學生の學習課程を中斷し、その年齢以下の普通教育は小學校にて施し、その以上の普通教育は中學校、高等女學校にて行ふのは、教育普及の便宜上、義務教育の設定上、學生取扱ひの便宜上、又中等程度においては男女生徒

教科

普通教育の教科

の學校を別にしなければならぬ等の事情から來たもので、その教育内容に至つては、年齢に伴ふ自然の分化發展のある外には、特別の差異はない。しかし普通教育機關をかやうに區別し、且つ小學教育を義務教育としたのと、實際上小學校卒業と共に學校教育を終るものが多數あるとの爲に、自然に小學教育がそれだけで完結的のものとなる傾向がある。しかし小學校を終つて直ちに中學校や高等女學校に進む者から見れば、小學から連續してゐる學習過程を中斷されて、學科の重複、入學試験等の不便があるわけである。

普通教育を授ける學校の生徒は、受容と發表との二作用によつて智識を構成し、能力を練磨する。而して受容作用を主とする教科は、その材料の性質により、多く自然に關するものと、多く人事に關するものとに分かれ、發表作用を主とする教科は、感官要素を多く有するものと、筋肉要素を多く有するものとに分かれると言へる。而して自然現象から分化して來る智

識は生理、博物、物理、數學等となり、人事現象から分化して來る智識は歴史、地理、經濟、心理學、社會學、語學等となり、感官要素を多く有するものは、國語、作文、圖畫、唱歌等となり、筋肉運動の要素を多く有するものは、手工（手藝、裁縫）、實業（實習）、體操（實習）、衛生法等となる。これ等の智識は普通教育を受けて獨立人格の基礎を作り、更に専門生活に入らうとするものにとりて必要なものである。これ等を智識技能の種類によつて概括すると、自然現象から分化して生じた智識は、物質に關する自然科學的智識であり、人事現象から分化して生じた智識は社會的智識であり、感官作用を主とする技能は藝術的技能であり、筋肉運動を主とする教科は、勤勞的技能である。

數學科は科學的智識と社會的智識とを結合し、手工は藝術科と勤勞科とを結合し、生理は衛生、體操に連絡し、修身科は全學科の智識を統一する位置にあり、語學は多數の學科に必要である。修身は道德意識を整理し、全生活の統一理想を與ふる學科で、最も大なる價值がある。數學は思考力

を練り、智力發展の形式を教へ、學習上實生活上共に必要である。手工は藝術科と勤勞科との分化の基礎として重要である。歴史は人類生活の記録、文明發達の足跡にして、修身以下社會的諸學科の全部及び文學美術に涉る教材を含んでゐる。博物はその實質を學び環境を學ぶ間において、生理、衛生、理化、天文の智識を學ぶことも出来る。

今基本學科として最も重要な學科を選択すれば、第一に語學、數學の二科であつて、これ等は社會生活と智能啓發との根本の需要に應ずることが出来る。第二は修身、手工、衛生であつて、信念を養ひ道德生活、健康生活を知り、勤勞の方法と趣味とを學ぶことが出来る。第三は歴史、生物であつて、人類、生物の生活と進化との理法、國家社會盛衰の跡を知り、我が時代と境遇の由來を知ることが出来る。

かやうに普通教育において學習する智識技能は頗る多いのであるが、性能開發の必要上大切なものと考へられてゐるのである。

普通教育の教師

普通教育を授ける教師は、極めて重大にして煩雑な任務を有するものである。教師は學生に對して二三の學科を教ふるだけでなく、生活全般について指導するを要し、肉體精神の兩方面に亘りて、開發すべき能力は成るべく早く開發させ、矯正すべき性癖は成るべく早く矯正しなければならぬ。この能力と性癖との發見は重大であるから、精確にして誤まらぬやうに努めなければならぬが、この事は極めて困難である。

教師は第一に人生に關する智識をもたなければならぬ。第二に心理的生理的觀察に要する智識技能をもたなければならぬ。第三に心理的生理的開發矯正の方法に通じなければならぬ。第四に社會における才能の需用狀態、各種職業の狀態、これ等と性質境遇との關係についての智識をもたなければならぬ。第五に廣く普通學科に關する智識をもたなければならぬ。

しかしこの事は甚だ困難であるから、校長が優秀な學識技能をもつてゐて、教師全體の教師たり顧問たるに足り、部下教師を指導して必要な處理をさせ、校内の全教師は各々一二専門的智識技能を具へ、これを綜合して

校長と教師

完全な一校の教育力を作ることに努め、又學校と家庭との教育上の協力を緊密にし、保護者等と共同して學生の教育を完全にする方法を講ずべきである。

高等普通教育

高等普通教育は中等教育であつて、人の一生中最大の危機にして、又心身發育の最大なる時代である。中等學校を卒業して高等普通教育を終りたるものは、一般生活の方針、殊に家庭生活、社會生活、立憲自治國民としての生活、世界文明の潮流に棹す一員として生活を理解し、自分の使命、自分の職業を自覺し、人生の信念を得、その實行に堪へる健全なる心身を以て、或は専門學校に、或は社會の實地に就かなければならぬ。

専門教育

使命天職

専門教育はすでに普通の教育を終つて、精神的にいへば自分の使命天職を自覺し、社會的にいへば自分の事業を決定することの出来るものが、その天職を果すべき方法や事業を營むべき方法を學習するために受くる教育

教育篇

である。即ち専門教育は一面において個人の社會化を全くし、一面においては職業の人格化を行ひ、かくて個人と社會とを結合する手段となるものである。

専門の職業に向ふものはそれをなす生きた機械たらんとするものではなく、一つの専門職業において自分の使命を行ひ、自分の人格的生命を實現しやうとするものであるから、専門教育において人格教育と職業教育との調和が出来る筈である。

専門教育は年齢の比較的長じたもの、特殊の才能に對し特殊の教育を與へるが、理想としてはあらゆる才能、あらゆる職業の要求に應ずる組織を有すべきである。

専門教育の機關 専門教育の機關は極めて複雑であるが、大別すれば實業學校、専門學校及び大學となる。専門教育を要求する特殊才能の種類と個人の境遇志望が甚だ複雑であるのに、社會の要求する職業的準備と程度も亦多種多様であるから、實業學校といつても工手學校、工藝學校、物理

機關

人と職業

教科の内容

學校、郵便電信學校、寫真學校、造園學校、自動車學校、航空學校など頗る多く、専門學校には醫學専門、齒科醫學、藥學、師範學校などがある。専門教育における教科の内容は、下級學級になるほど総合的、技能的、應用的であつて、上級學級になるほど分化的、理論的、研究的要素が多くなる。而して下級學校においては多數の業務員を作り、上級學校においては少數の指導研究の任に當る専門家を作ることになる。

専門職業教育は實業社會に接觸することが密であるから、實利主義に支配され、人格道德の觀念が薄くなる傾向があるので、人格教育と職業教育とは分離されると考へられ易いが、功利上の見地よりいふも、實地の成績からいふも、人格の優秀なものは、技能のみ優良なものに比べて、優ることも劣ることはない。

専門教育においては特殊の智識技術につき、具體的に且つ完全精密にその研究法と興味とを養ふべきものである。而して又教ふる所が社會の需用に應ずることが必要である。社會の状態を観察して、實地に關係の多い理

人格教育と職業教育の調和

論と技術を教へ、これを實地に應用する方法を教へねばならぬ。眞理研究を目的とする純學者を養成する以外のすべての専門教育においては、應用力を養成することが最も重要である。

大學も専門教育の一機關であるが、他のすべての専門學校に對立して、特殊の機關である點は、他の専門學校が實地應用を主とする研究であるのに、大學にありては研究と應用とを併立させ、一面眞理を研究し、且つ眞理研究法を學び、一面これを實生活に應用すべき工夫をする。そこでその教科編制、設備組織等すべて研究に利便を與ふることが主となり、普通の専門學校が應用實習の方面を主とするのと異ふのである。大學卒業生は社會民衆の指導者となるものであるから、大學はその資格を具へた國民を養成するため、學術以外に努力しなければならない。獨り大學ばかりがこの資格を具ふる任務があるわけではないけれども、大學は最高教育機關であるから、最も發達進歩した成績を示し、社會の進歩、民族の改善に對し、根本動力たる模範的人格となることを要するのである。

大學

要義

専門教育の要義 専門教育は人の特殊の才能に對し、それを發達せしむべき智識を與へ、人の天職の自覺に確信と興味を得させ、將來その特能の要求に従ひ、その力のある限り發展させる教育である。又社會の職業の需要に對し、優秀にして社會的有効に發展する特能を具へた人を送り、職業をして最も有効に人格化せしめる。更に又専門教育は人の特能を發展させることにより人格的生命を充實し、これを具體化、社會化する方法に熟させる。以上の要義は人の特殊才能に對して専門職業的教育を施すといふ事業に含まれてゐる價值ともいへるのである。

家庭教育

家庭は子供の唯一の世界であつて、人の生活の始まる所である。家庭は人の生活上の諸要素の備はる所であつて、その心身に對する交渉は頗る複雑である。家庭における人と人との關係は極く親密で、その感情は最も濃厚であるから、家庭にあつては自然に力強い共同生活をなし、従つて力強

子供の世界

教育篇

い影響を各家族に與へるものである。その家庭が子供に與へる精神的感動、物質的刺戟の効果が強烈なことは、實に驚くべきものがある。それ故少年少女の教育のために特に注意して、善美なる要素を具へて、その發達を自由にしつ十分ならしめることが大切である。

家庭は子供のために學校教育の準備と補充をする必要がある。學校教育は家庭教育の基礎の上に行はれ、又家庭の協力を得て始めてその効果を全くすることが出来るもので、家庭と無關係な學校教育は、全く効果が無いとは言へないけれど、その効果は甚だ減少されるのである。子供が學校にあつて教育を受ける時間は、一日の中の數時間に過ぎない。一生の中の數年間に過ぎないで、その他の時間は大概家庭の中に生活するのみならず、學校にあつて學んだ事を實行し、これを體驗して確實な精神内容とする機會は、家庭において最も多く發見されるのである。

家庭は又社會に對して子供を教育する責任がある。家庭は實に社會組織の基礎であつて、且つ社會の一分子たる個人は、家庭が供給し又家庭が養

護する。だから社會の健全な發達をするに否とは、家庭における教養の善惡に基く。家庭で子供の教養に注意しないものは、社會の進歩を沮害するものといはねばならぬ。

家庭には家庭としての特殊の任務があり、價值があり、子供の教養ばかりを主とするわけには行かないけれど、世間によく見るやうに、家庭を單に休息の場所として、不規律で平氣であるのは悪い。子供の教養は全く家庭に任せてしまつて、家庭教育に頓着しないのも悪い。中には學校の不注意を非難はするが、自ら進んで子供のためにこれを正さうとしないものもある。更に又子供の周圍の社會が悪い影響を與へるのに對して注意しないとか、これと反對に子供を愛する餘り、社會の悪い影響を怖れて、子供を家庭にばかり閉ぢこめ、少しも實社會に接觸せしめないとかいふのは、何れも子供の教育に親切なものとはいへないのである。

家風 家庭の教育的要素として大切なるものは家風である。家庭にはそれ／＼特殊な一種の精神的空氣があつて、常にその家庭に満ち、家族を包

んで何時かはなしに感化を與へつゝある。この家風は家族が家にある限り一秒の隙間もなく刺戟を與ふるものであるから、その隱微の間に積まれた成績の重大なるを知つて、家風を善美にするやう努むべきである。

家庭は骨肉自然の愛情を精神的基礎として成立つものであるから、家風の主要な内容は、理智を重んじ規則に傾くよりも、むしろ溫和、親切、明快な感情を濃密にして、子供の心情を柔和に、温順に、自由に、純情にのびることを望むべきである。これは子供の將來發達すべき性格の基礎をなす要素である。我れを忘れて人に同情したり、努力苦痛を感じないで喜んで人の犠牲となつたり、強いて注意しなくても自然に互に助け合つて、家族各人が一體の觀念をもつたりするのは、家庭でなくては見られない事で、これ等は社會生活の根本道徳である故に、この點は家風の特長として充實させなければならぬ。

生活には一定の規律秩序、禮儀作法がなければならぬことを知り、殊に長上の權威に服してみだりに批評しないとか、その命令を速に實行するこ

か、叱責されたり罰せられても怨んだり怒つたりしないとかいふことは、社會生活上に大切な氣風であるが、これも家庭において充分に養成される。家庭でかやうな氣風を養ふには、文字や口で講釋するとか外力を用ひて強制するとかいふことでなく、同情同感による直感と坐臥談笑の間に知らず知らず養はれる習慣とによつて、すべて實行する態度が必要である。

更に家風と人格の要素として欠くべからざる感情は、敬虔、嚴肅、感謝等の宗教的氣分である。これは不規律に流れやうとする家風をひきしめ、將來人をして生活や人生に對する信念を作らしめ、道徳實行の原動力を與ふべきものである。

その他家風を作る要素としては、家族の人格、家の歴史、家憲、職業、環境から家屋、土地、氣候に至るまで頗る少くないが、これ等の諸要素を結合した上に、善美な家風を作ることには決して容易なことではない。

父母 家庭の人格的要素は家族で、必ずしも法律上の家族に限らず、一家の内に日夜寢食を共にし、他の外界に對して全く特立する共同團體をい

ふのであるが、この家族は相合して一つの家風を作り、互に感化し合ふものであるが、殊に少年少女に對して大なる影響を與ふるものである。

家族間の道徳は一言にしていへば愛である。温和純情な愛において同心一體なるものが理想の家族である。而してそれは自然の衝動に發する本能的愛情に止まらず、人格の尊貴に對して發動する合理的愛情でなければならぬ。少年少女に對して良好な感化を與ふるものは、家族の共同一致して不和のないことと、向上進歩して止まざる活氣あることである。父母や兄弟が自分ばかり尊貴ぶつて、他を威服して家族の共同一致を求めやうとするなどは大なる心得違ひである。家族は反抗するか、さもなければ無精神な奴隸となつてしまつて、教育的價値のある家風を作ることには出来ない。家族は老幼男女皆修養の道づれであると思つて、等しく温和親切に互に助け合つて、たゞ多少の先進後進の差があつて、指導するものと指導を受けるものゝが出来るのに過ぎないと心得るがよい。この根本においては學校における教育精神と全く共通である。而して家庭と學校とが少年少女の教育

育について相連絡し、相協力すべき理由の基礎は、この共通の根本的教育精神にある。

家庭における人格的要素の中心として、殊に教育上の責任を負ふものは父母である。父母が兒童教養上重大な地位になる事は、感化院に收容さるゝ不良兒中に、父母のあるものは少くその過半は父母の無いものか、父母の一方が無いものか、又は繼父母のものかである事實からも知る事が出来る。そして唯父母の有無すら兒童の性格に多大の影響を與へるとすれば、その人格の感化や教育上の注意の有無適否の効果は推知する事が出来る。

教育の場所としての家庭を主宰し、少年少女を教養する父母は、人生について理想信念を抱き、よく家庭の教育上の任務を理解し、心情圓滿にして光明な温和な家庭の源となり、身體發達の理論方法に關する智識、生理衛生、住居、食物、衣服に關する智識、殊に兒童の心理と生理に關する智識をもたねばならぬが、家庭にあつて子供の教養に當るのは普通母であるから、母たるものは兒童教養に必要な智識をもたねばならぬ。しかし家

児童教育法

庭教育では智識に偏し學理を重んずるあまり、児童の取扱方の機械的になるのは悪い。それは児童の元氣を萎縮させ、その感情を冷やかにさせ、陰鬱な性格を作るやうになる惧がある。これに反對に児童の活動を重んずるあまり、本能の自由を重んずるあまり、全く放任して不規律な生活をさせるのも、教育上良好な結果を得るものではない。

家庭において最も誤られ易い児童教育法の一つは、児童を愛して早く發達させやうとする所から、児童が要求しないでも、父母や祖父母の好む所に従つて、心身發達の程度に適當しない事柄を注入し、その諳記を強いて児童が心身の調和的發育を害し、却つて學問の興味を失はせることである。児童の見たり聞いたりする事物はすべて新奇であるから、その好奇心を動かして絶えず何かしら疑問を發せしむるものであるが、この智識慾の發動を適宜に利用し、研究の興味を養ひ、次第に觀察思考する力を與へることは、児童の將來のために極めて重大であるに拘はらず、多くの父母はこれをうるさがつて放任したり、無邪氣な滑稽として笑つてしまつたりするが、

子供の知識

自治獨立

これは児童のために悲しむべきことである。

規律秩序

我が國の家庭教育で重要なことは、自治獨立の氣象を養ふことである。毎日の生活において自分の事は出来る限り自分でなし、出来ることを他人に依頼するのを恥辱とする風を養はねばならぬ。次には規律秩序を重んずることが大切である。學校で規律を教へても、これを學校だけの特殊の方式として、家庭では一向無頓着に放擲する傾向がある。これは児童の心身を不健全にする重大な原因であつて、その結果社會生活上種々の不便都合が生ずるのである。規律秩序は平生の習慣によつて養はるゝものであるから、家庭においてこれを勵行し、児童をして早くからこれに慣れさせなければならぬ。

學校の成績

世の父母の教育を重んずるものでも、児童を學校に入れた後は、學校に一任した氣持ちで、たゞ學校の成績の優等となることばかりに氣を取られ、児童の圓滿な發達に注意するものが少い。學校は専門の教育機關ではあるが、児童の性格の形成發達から見れば、たゞその一部に對するもので、學

校の設備がいかに進歩しても、家庭、社會、自然の一切から來る複雑限りなき影響を整理し、これを悉く善美なる教育的要素とすることは出来ない。又學生の一人につきその個性を研究し、心身上の長所短所、遺傳習癖等を知り、適當な教育法を施す事も望めない。今日の如く不充分なる教育費と設備と教員とを以て、過多の學生に速成教育を施さねばならぬ時代にあつては殊にさうである。この點は家庭に於て父母の特に努力を要する所で、一面には學校の教育法を理解し、その完成を家庭において助け、又一面には心づきの點を學校に注意し、兒童の個性、習癖等は詳しく學校に報告して特別の注意を促し、絶えず協力して少年少女の教育に努むることは、不十分なる學校教育をしてその効果を偉大ならしめ、彼等の發達をして充分ならしむるために、避くべからざる父母の責任である。

社會に對する家庭の注意としては、少年少女に觀させて良いか悪いかを判斷しないで、各種の興行物を觀るにまかせたり、内容を調べないで出版物を讀むにまかせたり、教育上避くべき人物をみだりに家庭に出入させた

り、彼等に有害な影響を與へる風俗習慣に接觸するにまかせたりするなどは、子供を愛する父母として警戒すべきことである。社會の惡影響を恐れ、子供を箱入りにして置かうとするが如きは、時勢が許さないことであるが、外界刺戟の影響については油斷なく心をくばり、その健全なものを選びて與へ、更に進んでは子供の教育のために、父母は社會改善に努力を吝まないまでの教育改善心と勇氣とを要するのである。

胎教 子供の心身の生れつきの性質が劣等では、到底教育の効果を擧げることが出来ない。そこで少年少女に對して善美なる教育を與ふるに先ち、善美なる素質をもつた子供を得る工夫をするのは、父母、教育者の希望であり、且つ又社會國家の要求する所であるが、それには胎教に注意し、更に進んでは結婚に注意せねばならぬ。

母の思想感情行爲などが胎教に及ぼす影響は、科學的説明は出来ないにしても、否定する事の出来ぬものである。昔の人が常識を以て作った胎教も、今日なほ多大の價值がある。胎教の基礎は母たるもの、平生の精神修

養ひ身體の健康とにあるが、更に事變に直面して狼狽せず、靜に處理の方法を考ふるだけの堅固な信念、明敏な判斷力が必要であり、又特に妊娠時に必要な心理と衛生の智識が必要である。而して一面にはその境遇として家庭の平和が必要であり、妊娠の意味と過程とを理解し、これに對して同情と尊敬とを拂ふ家族が必要であり、更にその住居が閑雅で靜穩であればこれに越したことはない。

心身の健全な子供を得るには、遺傳についても注意しなければならぬ。人の個性、才能、體質などには遺傳による所が多く、父母の特殊の經驗習慣は、その子に何等かの様式と程度で遺傳するものと考へられる。殊に遺傳の事實の著しいのは、父母の中精神病に罹つたものがあること、その子孫に精神病に罹りやすい性質を遺傳すること、梅毒酒毒に犯されたもの、子に著しく心身の欠陥を示すものが多いこと、結核性諸病に罹つたもの、子には結核病に罹りやすい素質を遺傳することなどである。

一般に多く家庭にあつて、直接に子供の教養に當るのは婦人であるから

婦人の教育も重要である。今日の女子教育においては良妻賢母の養成を目標としてゐるが、實際に家庭生活の準備となるべき教育は家事科である。しかるに家事科にて教ふる所は淺薄な衛生、經濟、衣食住に關する概説に過ぎないもので、時間數も少く、むしろ裁縫料理に多くの時間を與へてゐる。これだけでは我が帝國の進運に適應する家庭經營や、子女教育の準備として不十分である。少くとも中流以上の家庭を營み、國家の中堅たるべき國民を教養する任務を負ふ所の女子に對しては、更にその教育程度を高めると同時に、その教育法を改善し、家庭教育の成績を更に大いに擧げなければならぬ。

社會教育

教育は社會の要求に應じて行はるゝ事業であるから、社會の實際に密接する必要があると同時に、社會は常に教育を監督し、保護し、補助し、聲援して、その社會的效果を大きくしなければならぬ。第一に社會は時勢の

進歩に應じ、絶えずその要求を教育に向つて提出し、これに對する準備を求め、適切なる教育機關を有することが必要である。第二に社會は教育機關を保護し、その活動をして十分ならしめ、その力の不足を補充する用意が必要である。第三に社會の組織及び風習を教育的にし、學校の卒業生その他の青年を受け入れて、その發達を続けさせ、教育の効果を實地に發揮させることが必要である。

今日の社會は教育の事業を學校にのみまかせ、社會の組織風習を改善して學校教育の趣旨と一致調和するに努めるるか、又は學校教育の力の足りない所を補充する各種の方法を設けるるか、いかいふ用意が足りない。

社會は學校をして社會に同化せしめ、遂に學校を社會化して、實地に適切有效な教育を行はしめると共に、社會は自ら進んで學校に協力し、各種の補助的事業を起し、社會自ら教育を要求する主旨を徹底せしむべきである。即ち教育を以て全く學校のみの専有物とせず、學校と補助的設備と社會全體とが連結されてこそ、社會にその價值を發揮することが出来る。學

學校の社會化

社會教育の
二方面

校に協力し且つその補助設備をするのは、社會の教育的任務の直接的な積極的な方面であつて、社會そのものを教育的に整理し、青年の修養を保護するのは、その間接的な消極的な方面である。

直接的積極的の教育補助の事業は、學校を補助するもの、教員を優待するもの、種々の設備を整へて學校の足らないのを補ふものなど種々あり又その方法には一個人としてするもの、特に團體の力によつてするものなど種々ある。

學校の補助

學校を補助し教員を優待するには、實業家が製品を参考品として寄附するるか、藝術家がその作品を寄贈するるか、書畫器具の所藏者が學校に貸するか、自家に學生教師を招いて觀せるとか、都會地に廣大な庭園を持つものが、時々學校のためにこれを開放するとか、工場所有者が學生教員にこれを見學させるるか種々の方法がある。殊に精神的に有効なのは、大多數の人は父兄、保護者の位地に立つ機會があるのであるから、この機會に關係學校を訪問して實地に觀察し、學校の意見を聞きこれに對するの意見

を述ぶることで、學校と社會と理解し合ひ、教育の趣味を養ふと共に、學校當事者を獎勵することになる。今日父兄會を開いて學校と家庭との連絡を計つてゐるが、この趣意を擴張して、父兄のみの會を催し、子女の教育について語り合ひ、その結果の緊要なものは、學校に對する注意、參考として教師に提出したり、父兄會から教師を招待して歡談を共にしたりする事は、社會、家庭、學校の三つを通じ、利益を得る所が少くないであらう。教育をして實地に適切に、社會に有効ならしめるには、教員をして活智識を有せしむることが必要である。故に社會は成るべく教員を刺戟し、その見學補習に便宜を與へ、教授材料を供給するがよい。陸海軍で戦利品を全國の學校に寄贈し、毎年の記念日に各學校に將校を派して講話をなさしめ、又地方駐在の司令官が時々學校に臨んで講話するなどの方法を、政治經濟方面にも及ぼして、殖民、貿易、産業その他の事項について、内外における變遷進歩の狀況を知るに足るべき報告、統計等を時々學校に送り、教授の活材料とするなどは、勞少くして効果は極めて大きいであらう。

學校以外に種々の設備を整へ、學校教育の及ばないものを補助するものは、例へば多數の圖書館を設けて一般民衆の修養に供することか、博物館、物産陳列館、動物園、美術館等を設けることか、講演會を開き活動寫眞、音樂等によつて智識と趣味とを養ふと同時に、他の不健全な娛樂に耽る機會を少くすることか、母たるものに對しては家事や教育上の智識を與ふる方法を設けることか、都會地では所々に小公園を設けることか、郊外に運動場を設けるとか種々あるが、業務の傍ら學藝を補習し、學校に苦學せずとも相當の智識を具へさせ、進んで一般民衆の智識、趣味を養ふことが出来る。

風俗習慣

社會の風俗習慣は日夜絶えず人を刺戟するから、その教育的影響の及ぶ所は頗る大である。故に社會は或は政府の力により、或は輿論の制裁により、或は特志家の運動によつて悪い風俗習慣を矯正し、一般民衆の品格を純潔溫雅に保ち、その心情を常に快適ならしめなければならぬ。

精神的空氣

社會には一種の精神的空氣があつて、その社會特有の風韻となり色彩となるものである。此の空氣は社會における精神的基調であつて、人の感情

を動かし、その精神的活動に非常に影響するから、社會及びその社會の各個人をして健全に且つ進歩的ならしむるには、その動力の要素たるこの精神的基調をして、光明溫和の感に充たしめなければならぬ。而してこの基調を作るものは、社會をなす各個人の精神的態度にあるのであるから、各人は日夜社會の空氣を汚さない態度をとり、社會の中堅をなす智識階級は、社會の公人としてその品格言動を慎まなければならぬ。

社會に地位階級の高いものは、一般民衆に對して正しい生活の手本を示すもの、即ちこれを導いて正しい生活の道を教へるものでなければならぬ。大なる財産を作つたものは、その富力を利用して社會に最善の活動をなし、民衆を救済する志がなければならぬ。若しさうでないとは社會の風教を維持するところは出来なくなる。社會の風潮として、その人を問はず、その心術を問はず、又その手段を問はずして、たゞ外形の成功だけを見て推稱したり、俗にいふ成金を羨望したりするのは、青年が獨立自活、道理を踏み理想を行ふ元氣を銷磨せしめ、依頼心、僥倖心、投機心を誘發するから、そ

民衆と風教

の害毒は恐るべきものがある。

不良少年少女はこれに接觸する多くのものに心身上幾多の悪影響を與へ、風俗を亂だし、陰鬱の氣力を作り、元氣を萎縮させ、殊に教育を妨げることに甚しきものであるから、その發生を防ぐのが必要である。彼等の中には元來心身の健全なものが、家庭の悪いために悪徳を以て常習とするやうになつたものが少くないが、社會の不良分子は一面救済を計るに共に、一面これを絶滅する方法を講じて、教育を保護するのみに止まらず、社會自らその健全を保護しなければならぬ。

不良分子の救済

科學の發達

近代科學の偉大なる發達は實に驚嘆する外はない。電燈や電車や電話などに驚異の眼をみはつたのは、何時の間にか過去の夢となつてしまつて、今や無線電話が民衆化されて、一躍實用の時代となり、我が國においてもラヂオは非常の勢を以て全國に波及しやうとし、放送當局者は近き將來に

ラヂオ

全國を礦石化しやうと計畫を進めてゐる。東京中央放送局ではすでに無線中繼放送を試み、演劇や音楽、海上の軍艦生活、野球競技などを二一〇メートルの短波長で愛宕山軍港に送り、それを普通放送の波長に直して放送し、マイクロフォンは街頭に進まなければならぬといふ主張を實行に移しつゝある。又海上ニュースの放送も試みられて、汽船旅行者に非常な便利を與へてゐる。

飛行機

飛行機は軍用ばかりでなく民衆用として著しく發達し、乗合飛行機や郵便飛行機などが次第に實用時代に入りつゝある。殊に注目すべきは昭和二年五月廿日リンドバーク大尉を乗せた米國機は、ニューヨークから佛國パリまで大西洋を横断して、三千六百哩を三十三時間無着陸で飛行し、世界の大記録を作つた。この成功に非常な衝動を受けた世界の飛行界は、つゞいて太平洋横断飛行を執行すべく勇躍した。我が國の飛行家もこの壯舉に参加すべく、使用機の選擇、航路の研究、時期、天候の研究、搭乗者の資格、體力の問題、油の搭載量、陸離の考察、機體の構造、經費等に就

科學的研究が積まれてゐる。

飛行機で夏季登山者を輸送する計畫が我が國にも行はれ、日本アルプスや富士登山者の空中輸送も近く實現されるであらう。

天文觀測

天文記録によつて以來最初の近距離に近づいたウインネツケ慧星が、昭和二年六月下旬奉天において山本博士の觀測によつて、この慧星に尾のあることを認め、觀測上の世界記録に貴重な新發見をしたのは、觀測術の進歩と望遠鏡の發達とによるものである。

昭和二年六月二十九日の日蝕に際し、東京では二分八厘の部分蝕であつたが、計算時間が實際時間と一致するかの問題や、太陽の三分の一が月の影に蝕ばまれて行く状態を觀測すべく、天文同好會の東京支部では太陽投影装置により、太陽の姿を映寫幕に擴大映寫して一般の自由觀覽に供したのは、天文智識の民衆化として意義あるものであつた。

自動車が乗用として到る所に走つてゐる一方、貨物運搬用として非常の成績を示してゐる。在來の荷馬車や手押荷車に比べて貨物積載量の多いこ

太陽の擴大映寫

自動車

と、運搬時間の非常に短縮されたこと、重量貨物の積込み積下しに、特殊設備あるものは特に便利であること、料金も荷馬車に比べて遙かに低廉であること等の特長があるので、陸上の貨物運送は急速に貨物自動車に移りつゝある。殊に貨物自動車が安價に買へることと、ガソリンその他の消耗費が安くなつたことは、益々貨物自動車の強味を加へ、最近道路が改修された方面では、鐵道の貨物運送と對抗して貨物の争奪戦が行はれるまでになつた。

映畫

活動寫眞では映畫藝術の理想を實現するために、三つの努力が行はれてゐる。即ち色彩を與へる事、聲を與へる事、空間を與へる事である。

色彩を與へることは現在主として米國映畫に現はれてゐる自然色映畫によつて、又聲を與へることはドフォレ博士の發聲映畫によつて、更に空間を與へることは、特殊なスクリーン、特殊な立體鏡の研究によつて、次第に實現されつゝある。

かやうな映畫の理想化運動は、映畫の中に色彩と聲と空間と時間と運動

とを與へて、スクリーンの上に人生の縦断面を現はさうとするもので、人生と對照して現實感を與へやうとする科學的研究に外ならない。

現在我々が映畫によつて與へられる大きさは、實物の大きさの三倍位になつてゐる。それがため一種の滑稽味か非現實味を感じる。人の瞳が馬の眼玉程大きかつたり、人の脚がコンクリートの煙突のやうに見えたりする。映畫の自然大映寫は早晩行はねばならぬ事であらう。色、聲、運動、空間、時間、大きさ等が映畫に自然に現はされるのも遠くはあるまい。

戦争について科學の發達は更に驚嘆すべきものがある。火器の發達と射撃法の進歩は、戰場に非装甲の人馬の活動を許されなくなる傾向があるの
で、怪物といはる、(タンク) 戦車が現はれ、今日では水陸兩用戦車が造られてゐる。

戦車

空中戦

現代に進歩した航空機は、陸戦や海戦に偉大なる攻撃力を發揮することとなつた。或る軍人は「空軍は或る場合、獨力で戦争を終局に導き得る」といつてゐる。將來の戦争には兩軍の空中大決戦が現出するであらう。又

敵國の都市を襲撃する。將來の戦争は國家の全威力を要する國力戦であるが、民間飛行機は多少の改造によつて直ちに軍用機とすることが出来る。故に民用機は空軍の有力なる豫備と見なされ、戦争が國力戦たることを茲にも示してゐるのである。

毒瓦斯

毒瓦斯は歐洲大戰の生んだ新武器であるが、液體鹽素の大量生産を必要とするもので、これは一種の化學戦である。そして工業力、國力の戦争であるともいへる。毒瓦斯の發達は瓦斯防護法の進歩を來す。爆薬は殆ど進歩の頂點に達してゐるから、新しい化學兵器の進歩は、國家工業を背景として將來の戦場に化學的攻防戦が行はれるであらう。

現代の戦争は科學戦、智識戦である。しかも科學的奇襲、科學的力戦であらねばならぬ。

修養篇

時代と雄辯

國際關係

我國は今や幾多の國家的大問題が論議され、國際關係は益々複雑となつて來て、我國が將來太平洋の覇權を握る優者となるか、それとも東海の小帝國として終るかは、主として我國民の愛國心と氣概と智見によつて決定されるのである。政府も政黨も利權のために國民の利益を犠牲に供してゐる。現状から考へれば現在普選法が實施さるゝ今日において、我國は一般無産民衆の間に、政治教育を普及徹底せしめることが必要である。健全なる政治は國民の健全なる政治的批判によつて達成さるゝもので、それは教育することによつて得らるゝものである。英國の労働黨では一年中絶えず政治的宣傳を第一の任務とし、或は機關紙を發行し、或はパンフレットを出版し、絶えず黨員を各地に派遣して、演説や講演を行はしめ、又し

政治教育

修養篇

ば、夏期學校などを開いて、黨員の教育養成に努めてゐる。それ故英國の政治家批判力は、他國民の追隨を許さぬまでに發達してゐる。先年労働黨が一躍内閣を組織して、英國統治の任に當つたのも偶然でない。我國においても普選の實施に伴ひ、又新政黨の發達につれて、第一の急務は先づ國民の政治教育にある。而して政治教育の實行に當つて必ず備へねばならぬ要件は、演説と文章の訓練をなすことである。殊に直接民衆に接するには、辯論の素養が第一の要件である。民衆政治は雄辯政治といふも過言ではない。憂國の至誠を有するものが自己の理想を實現しやうとするに、必要な唯一の武器は雄辯である。

・雄辯は最高の藝術である。古今の東西を問はず愛國の志士が、雄辯を劍として正義のために戦ひ、勝利を博して國家の發展に貢献したものは少くない。彼等は雄辯を以て一世を指導したのである。雄辯は人を感動せしめ、發奮せしむるのみならず、更に進んで人を制服する。雄辯家が壇上に立つて誠意を以て眞理を論ずるや、聴衆を征服し、彼等の理性を得心せしめ、

辯論の素養

最高の藝術

支配者

判断を制し、遂に彼等をして正義のために奮起せしむるのである。雄辯家は壇上に立てる支配者である。彼の明確な論理、彼の鋭利な論鋒、彼の辯舌の力は聴衆を支配し、眞に鬼神をも泣かしむる概がある。かやうに雄辯の力は偉大であるから、各國の政治家や社會の指導者は、いかにして雄辯の力を修得すべきかに苦心する。現代の社會においては各人が自己の意見を明確に發表し得るだけの辯舌をもたねば、新時代の文化人たるの資格はない。我等の時代は自己の修得したる智識、信念を、辯舌又は文章によつて公衆に發表し、群がり起る諸問題に對し、自己の主張を辯論によつて、社會に訴ふることをせねばならぬ。

雄辯の修得

しからばいかにして雄辯を修得すべきかといふに、先づ第一に讀書見聞を廣くし、體驗を豊富にし、各種の問題に對して深く考察し、確固たる信念と卓越した識見と熱烈な至誠とを基調とし、態度や言語などを習練すべきである。雄辯家の中には稀には先天的にその素質を有するものもあるが、多數の雄辯家は苦心練習の結果であることは、その傳記を讀むものによつてよく

練習

知る所である。昔マセドン王フィリップを論駁して大雄辯家の名を轟かしたデモスセネスは、少年の頃は非常な訥辯で、音聲も低く態度にも癖があったのを、彼は海岸に立つて怒濤の音と聲を競つて音聲を練り、絶えず鏡に向つて態度を正し、發音の悪しきをなほす爲に口中に小砂を含んで演説を試み、特に肩をそびやかす癖を正すためには、天井から劍を吊してその下に立つて練習し、當時の名優について發聲の秘訣を問ひ、名家の演説を反覆暗誦し、辛苦幾年の後、遂に古今獨歩と稱せらるゝ大雄辯家となり、「デモスセネスに天才なし、たゞ練習の力による」と言はれたのである。昭和の時代に於て自己の主張を達成するには、辯舌の力が必要である。雄辯は人格であつて、技巧や末節に走り、本來の精神と信念を失ふやうでは、演説はたゞ遊戯に終つてしまふ。國家社會に盡すには人格の力、辯舌の力が必要である。我國の青年は大いに辯を練り文を習ひ、中央にあつても地方にあつても、自己の主張を遺憾なく天下公衆の前に發表し得るやうに心掛けねばならぬ。

時の記念日

時の宣傳

毎年六月十日は「時の記念日」である。「時の記念日」は時を尊重すべきことを社會に宣傳する日である。時の尊重には先づ時の意義を嚴肅に考へてかゝらねばならぬ。昔から「時は金なり」といふが、そんな功利的な物質的な考では、眞に時の貴さは知られるものではあるまい。

時は生命

時はこれを人間の立場から本質的に解釋すると、生命そのものであるといへる。生命のあるところに時があるといへる。トク／＼と心臓の鼓動するもの、スー／＼と呼吸をしてゐるもの、我々の生命の周期的なリズムでそれがまた我々の時なのである。生命をはなれて時はないのである。全く「時は生命なり」といふ外はあるまい。かやうに時を生命と解し、一分一秒も生命の單位だぞ心得ることによつて、初めて時の意義が嚴肅になり、時を尊重する精神が力強いものとなるのである。人生五十年といつても、實に短い生命ではあるまいか、しかも

それを長いと油断する所から、生命をきざむ一秒一分が、空しく無意味に過ぎて行くのである。

しかし考へて見ると、今過ぎ去つた一分一秒一時一日は、また會ふことのない我々の生命を送つたのではないか。古語に「青年重ねて來たらず一日再び晨なりがたし」とあるが、一日はおろか、今時計がカチ／＼ときざむ一秒一分もまた二度と來ることのない貴い生命の流れであらう。テニスの詩に「今日も青き日また明けぬ。その日をしてその日はたらきあらしめよ」といつた句があるが、この青き一日をはたらきあるものとなすには、先づ生命の最も短いリズムに眞剣な注意を拂つて、我々の生活を充實せねばならぬ。

時の觀念

我國の人は昔から時を尊重する觀念が少いと言はれてゐる。それは第一に時の嚴肅な意義を理解せず、時を粗末にすることは、生命の尊さに自覺がないからであるといふことに醒めてゐなかつたからである。

昔は「山中曆日なし」などといつて、時に無頓着な心持を風流だと思つ

生命のリズムを計る

た人達もあつたが、今日ではどんな山里でも、時計のない所はないやうになつた。人間が時計を用ふるやうになつたことは、世界文化史上の一大進歩であつて、人間が生命の尊さを知り、又労働の大切なことを知るに至つた賜である。昔の人は太陽の傾き加減や、腹時計などいふ不正確な標準で時を計つたものであつたが、今日の人は家にもポケットにも腕にも時計を離さずに、正確に生命のリズムを計ることになつた。それだけ今日の人は時に對する明確な觀念と、時を愛する強い自覺とが出来る筈である。

今日の時代は生活の時計化の時代だと考へて、これを訓練することが極めて大切である。昔の武士は大小の刀を腰に横たへて士氣を鼓舞したが、今日の新人は大小の時計をポケットと腕とに持つて、分秒を争ふ多忙な規律ある生活をせねばならぬ。そしてその時計は昔の武士が鞆の飾りよりも中身に精神を籠めたやうに、機械が正確でなくてはならぬ。しかるに虚榮の強い現代人は、時計の側や鎖の見える所にばかり金をかけて、粗悪な機械のものを持つて平氣である風がある。しかしかうした時計觀では、とて

も我々の生活は時計化することは出来ない。裝飾が貴いことよりも、遙かに多く時が尊いことを知らねばならぬ。

しかしいかほど精確な時計を持つてゐたといつても、時計は機械であつて、これを活用するのは人である。今日はどんな家庭にも時計があり、大概の人は時計を持つてゐるが、これを活かして利用するのは、我々の時に對する自覺と教養とに依るのである。

養生と鍛鍊

吾人は單に此の世に生存して居るのみで、以て其の天職を果したといふ譯ではない。それ／＼の力に應じて、最大最貴の事業をなさねばならぬのである。其の最大最貴の事業をなすには、精神を發達させねばならぬし、また此の精神を載せて居るものは即ち身體であつてみれば、青年のやうな前途望の多い者は、特に注意して此の身體を愛するやうにせねばならぬ。しかし身體を愛するとも、其の度に過ぎては却つて目的が達せられない。

世には養生家を以て任じて居る一種の人があつて、少し堅い食物は消化が悪く、悪いからといつて退けたり、また少し風が吹いて塵でも起ると、今日は空氣が悪く、悪いから散歩をしない方がよいなどといつて引籠つたり、咳嗽が少し出るからといつて驚いて醫者を迎へたりとするといふやうに、何事にもびく／＼して日を送つてゐるのであるが、其の結果は果して強健な身體と堅固な精神とを保つことが出来るであらうか。

吾人が養生して身體を愛するのは、敢て死を怖れるがためではない。また病を怖れるがためでもない。身體といふものは精神の宿る所であつて、其の宿る所が強健でなければ、學業も成らず、志望も満たすことが出来ぬからである。そこで身體を鍛鍊するといふこと、即ち積極的養生の必要が起つて來るのである。

凡そ生活體といふものは何れも自衛の靈力を有して居るもので、此の自衛の力は外界の刺戟に對して抵抗力となつて働くものである。此の自衛の力を善導して強大の抵抗力を養ふことは、一種の身體の鍛鍊となるのであ

抵抗力

る。例へば冷水摩擦をすると、其の人の自衛力は其の皮膚に於て外界の寒い刺戟に抵抗して働くのであるが、それを繰返して行ふと、自衛力が幾度となく皮膚に於て働くので、其の皮膚は寒い刺戟に對する抵抗力を漸次に増して、遂には寒冷に對してさほど刺戟を感じないやうになる。かうなれば抵抗力は皮膚の點などに於て、ほぼ養はれたといつてもよい。此の外成るべく着物を薄くしたり、襟巻などを用ゐないやうにするのも、亦之と同様であつて、段々皮膚が高度の抵抗力を得て來れば、遂には厚着をしたり襟巻をしたりしないでも済むやうになる。また粗食に堪へたり、餓渴に堪へたり、風雪炎暑に堪へたり、遠行に堪へたり、勞働に堪へたり、疲勞に堪へたり、夙夜夜寢に堪へたり、精神の不快や倦怠に堪へたりするものも皆同じやうなことであつて、畢竟はどんな事柄に對しても抵抗を繰返さへすれば、其の事に對して高度の抵抗力が得られるやうになるのである。

これが人身の靈妙な所で、身體の鍛錬といふものは即ち此の人身の靈妙な作用を發現形成するに至らしめるまでの徑路である。さうして抵抗力が

嬰傑たる老翁

多く得られると、病氣に罹らねば仕事も十分にすることが出来る。そこで世に身體の鍛錬に經驗のあるものは、此の事に多大の興味を抱くやうになつて、愈々鍛錬を怠らないから、知らず識らずの間に、生を通じて、壯健な身體と爽快な心情とを保つ事が出来るといふ幸福を享受するのである。このやうな實例は世の高壽者にしばしば発見されることであつて、人の羨望する嬰傑たる老翁は、大抵身體鍛錬の消息を解して居る人なのである。かの堅忍不拔といひ、百折不撓といふやうな訓言は、何時の代においても、何人に向つても、常に繰返されるのであるが、此の身體鍛錬の消息を解してこれを實行したならば、はやその訓言の半ば以上を、實行し得る地位に立つて居るといつてもよい。右のやうな精神は鐵のやうな身體と相俟つものである。精神と身體とを別個のものとして引放して考へることは誤つて居ると同時に、身體の鍛錬と精神の鍛錬とを別物として考へることも亦誤つて居る。精神の鍛錬をするといふことは、ある點において身體の鍛錬をするを解釋しても宜しい位である。かやうな關係であるから、修養に心掛

けて居る者は、身體の鍛錬についても亦十分に思をいたす所がなければならぬ。

煩勞

身體の鍛錬は一朝一夕に了する事も出來ず、また自己の習慣や感情と戦つて、之に克つ事を敢てしなければならぬ場合も少くないので、一寸考へると極めて困難で、また極めて煩勞な事の様であるが、然しそれは眞實の消息を解しない所から起る誤りであつて、さのみ困難でも煩勞でもない。高い山も一步一步に登れば、遂に頂に達すると同時に、鍛錬も漸を以て進めば驚くべき所にも達する事が出来る。其の一例を挙げると、なまぬるい水に浸した手拭で、早朝皮膚を摩擦するのを手初めとして、次にはこのなまぬるい水を寒冷の水とし、また次には冷水を被り、また其の次には進んで冷水に入るこいふ様にすれば、甚しい艱苦や恐るべき蹉跌などには會はないで進む事が出来る。其の他の諸法も亦之になぞらへて考へれば分る。しかし進むことを知りて、退くことを知らなければ危い。身體の鍛錬のみ事として、彼の消極的攝生を全く顧慮せぬといふことになる、其の勇

蹉跌

無謀なる身體
鍛錬は避くべし

鉄石

者たるにおいては許される所があるかも知れぬが、其の智者たるにおいては遠いかなこいはねばならぬ。人はたゞ勇さへあればよいとはいはれぬ。勇あるばかりでなく、また智あるものであつてほしい。いかに吾人の身體が凜乎たる精神に依つて十分に發達し、十分に抵抗力を具有するまで鍛錬されたにしても、物質上の規則で行はれて居る天地であるから、火に逢へば焼け、水に逢へば冷えるのであつて、鐵石にあらざる限りは、身體は或場合に外力の攻撃と壓迫とに堪へることの出來ないものである。野原にごろ寝をすれば風邪を引く。汚い水を飲めば腸を傷ふ。酷い日光に長く照され、ば日射病に罹る。各種の病菌の侵入を被れば、我が身體の作用が之に克たない以上は、病氣にならねばならぬ。此のやうな事情は、これを無視する譯にはゆかぬ。

人體は最靈最妙の機關であるだけに、其の損傷されることも亦容易であることを忘れてはならぬ。して見れば、積極的に身體を鍛錬する一方には消極的に攝生に注意を怠つてはならぬことも亦自から明かである。消極積

人體の保護

極きの両面が相俟つて、双翼兩輪の關係をなすものであるから、かならず一を取つて一を捨て、はならぬ。積極に鍛錬し、消極に防衛し、勇以て自ら疆くし、智以て自ら守り、强健な身體を保ち、さうして常に堅固な精神を之に充實するやうに心掛けるは、總ての人に對し、殊に青年の最も努むべきことである。

敬神

我が國民は昔から祖先崇拜の美風が篤かつた。この光輝ある日本の國家が幾千年の昔から、上は皇祖皇宗の高徳と、下は我々の祖先の忠義とによつて傳へられた幸福を考へると、我々は切に感恩の情に堪へないで、感謝記念の意を發表するために祭祀を行ひ、これと同時に祖宗の遺業を繼いで、ますますこれを發展させることは、我々が祖先に對する光榮ある義務である。この美風は我が民族の特色であつて、皇室におかせられても常にその範を

垂れ給ひ、國民の幸福をひたすら御祈りになるのである。

我が國は皇室を中心として一大家族的の結合をなしてゐる。そこで永久の理に於いては君臣、情に於いては最も親しい父子といふ世界無比の美しい關係が成立つてゐるのである。

我々が郷土に祀つてゐる氏神は、即ち祖先を同じくする一族が共同に祀つてゐるもので我々の郷土を守護する産土神である。だからお互の一家の内に神棚があつて祖先を祀ると同じやうに、一郷の氏神は一郷の平和團結の中心をなしてゐる。これは我が國の特色で外國には見るここの出來ない美風である。

神社には天照大神を始め、神代の諸神、天皇、皇族、又は國家に勳功のあつた忠臣を祀つてあつて、明治四年諸神社の社格を定め官幣大中小社、別格官幣社、國幣大中小社、府縣社、郷社、村社、無格社などの別がある。その數は實に十一萬六千餘社に達し、いづれも國民尊崇の中心となつてゐるのである。

官幣社
國幣社

別格官幣社

府縣社

郷社

村社

無格社

伊勢神宮は別に社格を定めないが、國家の宗廟として社格は申すまでもなく諸神社の上にある。官國幣社を總稱して官社といひ、府縣社以下を諸社といふ。官幣社は昔は官より奉幣し、國幣社は國司より奉幣した所から官國幣社の別が生じたのである。現今にてはいづれも内務省の所管に屬するも、例祭には官幣社は神饌幣帛料を皇室より下附せられ、國幣社は國庫より下附される。祭神の功績由緒によりいづれも大中小の三社があり、別格官幣社は國家の功臣を祀り、社格については當時官國幣社のいづれに屬するかが、決定されなかつたために、假りに別格として官幣社に列せられたものである。諸社は地方官にてこれを管理し、神饌幣帛料は府縣社は府縣より、郷社は市町、村社は市町村より供進する。この外無格社といふのは村里一部の人民の所管ではあるが、同じく國家が公認してゐるものである。

藝術篇

小説

通俗小説と
藝術小説

小説は極く大きく分けて見ると、通俗小説と藝術小説との二つになる。そして一口に言へば、一般民衆を対象として書かれたものが通俗小説で、作者自身の内面の藝術的欲求から來る或る物を、智識階級の讀者に傳へるこか、又は訴へやうとして書かれたものが藝術小説である。而して眞の藝術鑑賞眼を具へた人は、智識あり教養ある階級の中にも、多くはないのであるから、藝術家として多くの讀者を得たいのは自然の慾望であつて、いかに高い主張や思想をもつてゐる人でも、成るべく多くの讀者に理解してもらふためには、そこに多少通俗的に作品の筆加減をすることになる。それと同時に通俗小説の作者も、一般の讀者を対象とする以上、多少自分の

藝術的慾望を表はしてゐないものも少くないであらう。又一代の藝術家が
高い藝術的欲求から書いた作品でも、一般民衆の思想が發達して來るに従
つて、それが極めて普遍的なものとなり通俗的なものとなる。例へば「哀
史」や「復活」が活動寫眞となつて、廣く民衆の眼の前に發表され、相當
の理解と興味を以て、少年少女の間にまで歡迎されてゐる。民衆的思想
の發達した今日では、それを基調としてゐる藝術が、廣い範圍の讀者をも
つてゐることは當然で、藝術家と讀者との距離は遠いものではない。

藝術小説は人間の個性を描いて行く作品で、通俗小説は人間の概念を描
いて行く小説であると解釋する人もあれば、通俗小説は智的な作品、事件
的な作品で、藝術小説は運命的な作品、絶對的な作品であるを解釋する人
もある。小説家が通俗小説を書く時には、絶えず讀者を頭の中に置いてゐ
て、多數の人に解るやうに、多數の人に面白く讀まれるやうに心がける。
たゞひどんなに深く個性の中に入つてゐるやうとも、表現の仕方一つでそれ
は多數の讀者に解つて貰へると思つて、解るやうに解るやうにと規つて書

く。つまり表現の際に頭が相對的に智的に働いたために、その作品は通俗
小説になつたと考へられる。藝術小説は人間の個性を放射する所の心靈を
描き、人間を創造的に描き出すもので、この氣持の前には讀者などは無い。
自分を裸體にして自分の前に立たせ、自分の個性を放射する心靈を見やう
とする。だから絶對的であると言へるのである。

通俗小説が事件的だといふのは、人生に起る事件は個人の心靈の放射で
あるのに、事件の動きを主として眺めて、その事件を生み出した人間の心
靈を主としないからである。しかしこの場合にも作中の人物の心靈をつか
んで、その心靈から放射するものを離さずに行けば個性も描き出され、藝
術小説になると考へられる。

近頃は大衆文藝といふ名によつて、通俗小説や新講談が多くの讀者をも
つてゐる。民本主義だの民衆主義だの民衆へ行くなどといふ言葉が、盛に
言はれてゐる今日では、通俗小説は民衆小説であり大衆小説であるともい
へる。通俗小説は新聞紙に連載される長篇小説に多く、藝術小説は高級雜

誌に掲載される短篇小説に多い。新聞の読者は社會の各階級に亘つた大衆で、教養趣味などが一般に高くないから、それ等の人達に面白く讀ませるには、小説の構想をするのに、讀者に斷えず一種の脅迫觀念を與へて、それを完結まで續けさせて行くやうにする。讀者を常にひやく／＼させる。例へば女主人公の運命がこれからどう展開されるだらうとか、この大學生にあの女を救はせたいとかいふやうな安價な同情を、作者の仕組んだ脅迫觀念によつて讀者から呼び起さうとする。かうした安價な同情は人間が共通にもつてゐる弱點であるが、この弱點を利用して讀者の機嫌を取るのが、通俗小説作者の慣用手段である。藝術小説は自分の藝術を自分で獨占してゐるやうな態度で書いて、必ずしも多くの讀者を得やうと考へないから、こんな慣用手段は取る必要がない。

小説家の主觀からいへば、作家の意識が絶えず動き進んで行くとして、その歩の先頭に立つて、自分に最も新しい、又自分の生活に最も深い交渉のある題目を捉へて書くのが、藝術小説であるともいへる。この場合作家は前方を向いて書いてゐるのであるが、時代意識の動きに隨いて來る一般民衆は、作家の踏んで行つた道を追つて後から隨いて來るわけであつて、その民衆に對して後を向いて書くのが通俗小説である。一口に言へば通俗小説は民衆のために書くものであつて、藝術小説は自分自身のために書くものであるとも言へる。

我が國の一般民衆は小説の讀者として、物語の面白さを求めてゐる。そこで作家もこの點を覘つて書くのが、今日の我が通俗小説界の傾向である。通俗小説が物語の面白さをもたなければならぬことは言ふまでもないが、あまりにそれを偏重し過ぎて、小説の筋や主題で讀者を釣り込まうとする。善人悪人の争闘の型を描かうとする。そこで小説が千篇一律で變化もなく情熱もないものになつてしまふ。物語は事件の説明であつて、事件を主とし、人間を従とするから、小説の價值が下落する。作中の人間が實在化され、さまざまの人間が生きて動いて物語を作り生かしてゐる所に、小説の價值が高まるのである。

我が文壇には自然主義が久しい間唱へられたが、その反動として人道主義だの、プロレタリア文藝だの、新技巧派だの、新感覺派だの、新人生派だの、色々の主張が唱へられるやうになつた。

プロレタリア文藝は、無産派藝術とも言はれて、階級意識や革命的精神を盛つたものであるが、一體文學の對象は生死愛慾の人間相であるから、無産派藝術も生死愛慾の人間相を對象とするもので、無産階級の生活感情、生活意識を含んだもの、新興階級の精神、氣分、意識などを表現したものである。新興階級にはその生死愛慾の人間相がある。例へば戀愛にしても、新興階級には新興階級の戀愛がある筈である。生にしても死にしても望慾にしても同じわけである。

新感覺派は新しい繪を見る感じを、工夫された文學によつて描き現はさうとするもので、その氣分、色彩、調子などは新味のあるものであるが、性格や心理の描寫には力を入れてゐない傾向がある。それ等は舊文學のもので考へてゐるからであらうが、しかし性格や心理は人生の重要分子であ

プロレタリア
文藝

新感覺派

新人生派

り、文學が人生の表現を目的とする以上、それ等を見のがさうとするのは正しくない。新感覺派の目的とする所は新しい人生の表現であらう故に、一面においてそれは無産階級の生活精神に觸れるべきであると共に、新しい性格描寫や新しい心理描寫が創造されるべきである。

新人生派は今日の文藝作品が内省も生命力も誠實もなく、單なる技巧外形至上的で享樂的で、人生的意義がないのに反抗して唱へられた主義である。今の多くの作品には人生に對する深い考察が忘れられてゐるから、もつと人間が人間として、本當に生きて行く力を與へるやうな文藝を創造しなければならぬと言ふのである。

日本の交際社會が歐米さちがつて、それ／＼狭い範圍の中に限られてゐることは、小説を書く上に種々の不便が見出される。小説家の生活が甚だ視野の狭いものであるために、藝術小説が結局作家自身の生活の範圍外に出られないのと同様に、通俗小説も作家の狭い經驗から離れることはむづかしい。今日の小説家は所謂身邊雜事的の作品を書くことに慣らされてゐ

る。作中に實業家が實業家らしく出て來ない。軍人が軍人らしく出て來ない。こゝに今日の小説の欠點がある。新時代を描き得るものは、新時代の生活をしてゐるものでなければならぬ。作中に活躍する若い男女の生活には、新時代の空氣が流れてゐなければならぬ。この點は藝術小説でも通俗小説でも同様に言はれることである。

小説家として最も主要なものは、第一に想像力の豊富なことであり、第二に觀察の精緻なことであり、第三に觀察の優れた才力である。例へばトルストイの「戦争と平和」や、ドストイェフスキイの「罪と罰」などを讀んだ人は、あれだけの大規模な小説、即ち想像の産物がよくも出來るものだと、その想像力の雄大なのに驚嘆する。又多くの優れた小説を讀むと、事物に對する觀察の鋭き眼光に驚嘆する。例へばゾラの酒場や市場における景物觀察、ドストイェフスキイの心理觀察の如き、その外界、内界の對象に對する彼等の觀察の天才は、魔術の如く讀者を感動せしめるのである。

今藝術品として日本の一流の小説と、西洋の一流の小説とを比較して見

ると、一般に日本の小説は單調で退屈で無刺戟である。この原因は我が國民の生活状態や天才の情熱の乏しいことなども考へられるが、主としてその藝術的天分の不足にある。東西の文學を比較する時、何人も明かに氣づくことは、西洋人の想像力の豊富で雄大なこと、日本人の想像力の貧弱なことである。モーパッサン、ゾラ、トルストイ、ストリンドベルヒなど一流作家の小説を讀んだ人は、その想像的構想のいかにも潑洩として、自由に、豊富に、且つ壯大なことを感ずるに反し、日本の小説家の想像力がいかにも單調で、貧弱であるのを感じずにはゐられない。しかし日本の小説家は觀察の才には優れた天分を持つてゐる。元來日本人は先天的に觀察即ち直感的理性に天分を持った國民であるが、事物の真相をつかんで、描寫の妙を發揮することにかけては、近代日本の小説は著しく進歩してゐる。

しかし藝術の價値は、單に描寫や技巧の一面に限られず、全局の構想にあるのであるが、今日の日本の小説の缺點は、實にその構想の貧弱にある。

言ひ換へれば小説上の意匠において想像力の弱いこと、空想の自由でないことである。

すべての優秀な文化をもつた民族は、先天的に想像力の發達した民族であるが、日本民族はこの點に缺けてゐるために、日本の文化には眞の創造がない。我々はその先天的な直感によつて外國の文明を理解する。しかし我々自身の創造、即ち新しき意匠をもたない。學術においても、藝術においても、我々は新しき發明の才に欠けてゐる。而してこの發明の才能は、それ自ら優れた想像力をもつことを意味するのである。

人は若い時ほど想像力が強く、老年になるに従つてそれが衰へる。この事實は日本人の一般に早老であることを説明する。日本の思想界においてロマンチズムが發育しないのもこのためである。老人の心は空想を失ひ、想像力が消えてしまふから、その思想は常に現實的で實質主義である。かやうなわけで日本の文壇に勢力あるものは、常に現實主義な思想、自然主義的な思想に限られるのである。

外國文明

早老

演 劇

今日我が國に行はれてゐる演劇には、ずっと古くからあつた歌舞伎劇といふものと、明治になつてから現はれた新派劇といふものと、大きく分ける二つになつてゐる。演劇は民衆娛樂として、映畫が流行するまでは最も廣く喜ばれたものである。今日でも映畫に次ぐ讚美者をもつてゐる。

歌舞伎劇といふものには時代物と世話物とがある。時代物といふのは歴史や傳説から題材を採つて來て、英雄豪傑を主人公として作つた芝居である。例へば太閤秀吉を芝居に書いた「太閤記」とか、加藤清正を芝居にした「地震加藤」とかいつたやうなものである。

世話物といふのは過去の時代における社會の出來事、即ち今日の新聞紙の雜報に出るやうなものを題材として、無名の主人を主人公とした芝居である。義理人情の色々にからんだものが一般に最も喜ばれたものである。

新派劇といふのは最初は壯士劇といはれたもので、舞臺に現はれる人物

時代物

世話物

新派劇

も風俗も言語も全く現代のものであつて、歌舞伎劇が舊時代の人物や風俗であつたのに對して、明治になつてから明治の人物風俗を舞臺に活躍させることを特色として生れたものである。

歌舞伎劇

歌舞伎劇は今日でも一番目に時代物を出し、中幕に舞踊と音楽を主としたものを出し、二番目に世話物を出すのが通例の並べ方になつてゐる。新派劇の方ではさういふ變化は見られないが、歐米で名高い脚本の翻譯劇を、一幕その間に加へたりして、観客を倦かしめない様に工夫されてゐる。

下座の鳴物

歌舞伎劇には時代物でも世話物でも、下座の鳴物といふものがあつて、笛、太鼓、三味線、鼓などの合奏をして、人物の出入や會話の間に情味を添へるのが特色の一つになつてゐるが、新派劇の方ではかやうなものは不自然であるとして、殆んどそれは使はれてゐない。しかしこれ等の樂器を利用して、風の音や雨の音を聞かせることは、存外觀客の感興を起させるもので、幼稚なやうではあるが巧みに工夫されたものである。

背景

舞臺装置は油繪で描いた背景の前面に、大道具、小道具といふものを配

大道具
小道具

置する。例へば座敷とか大木とかいふ作り物は大道具で、火鉢、大小の刀などは小道具である。

準備

面白い芝居が舞臺で見られるやうになるまでには、どんな準備がなされるのであらうか。芝居團はまるで別世界で、昔からの傳習を守つて、嚴然として城廓を構へてゐるから、門外漢は容易にさし覗くことさへ許されてゐないのである。

世界定め

芝居の初日の開くまでの順序は、まづ第一に座の主腦者が時季、場所、役者の顔ぶれ、周囲の事情などを考へ合はせて、大體狂言の並べ方を工夫して、これを「世界定め」といふ席に持ち出して、協議の結果その座の狂言が決定する。狂言の並べ方一つで興行の成績に非常な影響があるから、一方ならぬ苦心を要するもので、劇場の主腦者の宅へ主な人達が會合して「世界定め」の協議をするのである。

次にその狂言を作者が座頭又はその狂言で主役をする役者の所で讀み聞かせ、かういふ狂言だといふことを非公式に通告して、豫め承諾を得て置

内讀
書拔

つけ
香盤

顔寄せ
本讀み

く。これを「内讀み」といふ。かうして狂言が決定すると、作者は役者に渡す「書拔」を作る。「書拔」といふのは脚本から役々の臺詞を拔出して、一人分づゝに書いて綴つたものである。

狂言作者の仕事としては、色々の文書を作る。香盤を始めとして、番附下、看板下、道具帳、その他髪、大道具、小道具、衣裳等の「つけ」といふものを作るのである。中で最も大切な文書は香盤である。それは役者全體の名を記した長く大きい野紙に、場割と役割を書込んだもので、これは立役者と太夫元とが取決めて、誰が何の幕で何の役を勤めるか、一目瞭然になつてゐる。これによつて役の振り割りの増減も出来るのであるから、初めは秘密にされてゐる。「つけ」といふのはそれ／＼の係りへ渡す下書で、例へば道具帳を受取つた大道具方は、それによつて大道作の製作にかゝる。「つけ」とは書つけの略語である。

「内讀み」が済むと、「顔寄せ」と「本讀み」にかゝる。顔寄せは一座の主なる人達が集まることで、その時新しい狂言か、若くはあまり出ない狂言

衣裳調べ

髪合せ

平稽古

立稽古

總ざらひ

だと、作者がそれを讀んで役者に聞かせる。これを「本讀み」といふ。この日奥役が役者に「書抜き」を渡す。それを受取つた役者は、それで役についでに不平はないといふことになる。

作者から衣裳のつけを受取つた衣裳部の主任や、髪をつけを受取つた髪部の主任は、それ／＼稽古場へ出張して、衣裳主任は布地を一々主なる役者に見せて、その好みを聞合はせる。これが「衣裳調べ」である。又髪主任は髪の臺金を幾つも持つて来て、一々役者の頭に合はせて好い悪いを聞く。これを「髪合せ」といふ。それが済んで、衣裳と髪製作にかゝる。

次に平稽古にかゝる。これは書抜きを讀み合せて、それ／＼舞臺上の打合せをする。平稽古が済んで臺詞がつくと、今度は立稽古にかゝる。それは役者が立つて舞臺上の居所を決めたり、又出入りを考へたりして、それ／＼受持ちの役をして見る。

立稽古が済むと、總ざらひに移る。これは「つけ」の記す所に従つて、鳴物を入れて賑かに稽古をする。始めと終りには拍子木も打つ。役者は立

上つて臺詞を言ひながら大體の動きを見せ、前からの工夫に更に工夫を重ねる。

舞臺稽古

總ざらひの次に來るのが舞臺稽古である。舞臺に道具を飾りつけて、鳴物も入り、たゞ衣裳をつけないといふだけであるが、帝國劇場では衣裳をつけて、すつかり芝居通りにやる。新作物はすつかり道具を飾つて稽古をやるが、昔からある解りきつた狂言では、道具だけ飾つて稽古しないこともあれば、道具さへ飾らないこともある。帝國劇場では衣裳をつけてやるので、この日に舞臺寫眞を寫すのが例になつてゐる。

舞臺寫眞

立廻り
立師

立廻りは各座に立師といふものがあつて、それ／＼工夫をして、以前からの型のある立廻りは、成るべく型を崩さないやうにし、新作物のは俳優の意見を参照して工夫するのが、その役目で、總ざらひの日に先づそれを自分が演つて、一通り役者に見せると、役者はそれによつて立廻りの稽古をする。

衣裳

芝居の衣裳は東京では、三越衣裳部が擔任してゐて、衣裳調べで衣裳が

鳴物

決定すると、劇場の衣裳主任と藏番とを呼んで、これまでである衣裳は衣裳藏から取出し、無い衣裳は本店から布地を取寄せて新調する。

シヤギリ

大體稽古が済むと、鳴物師の活動する時になる。つけ師が稽古に立會つて鳴物の配合を考へ、あり來りの狂言の時は、その手を崩さないやうに鳴物をつける。總ざらひの日にはシヤギリも入れ、打出しの太鼓も打つ。

看板繪

芝居の看板繪は鳥居派の繪師が、描くことに決まつてゐて、看板下を受取つた繪師は、それを期日までに描かねばならぬ。かうしていよいよ初日が近づくと、廣告、表飾り、切符、番附繪本などを整頓させて、開場の日を待つのである。

開場

繪畫

流派

古くから我が國に行はれてゐる日本畫には、數多の流派があつて、狩野派、土佐派、四條派、浮世繪派など、それ／＼畫風を異にしてゐる。狩野派は墨繪に最もよくその特色を發揮し、土佐繪や浮世繪などは、艶麗な彩

色繪に最もよくその特色を發揮してゐる。又支那から傳來した南畫、北畫といふものがあるが、南畫は同じ山水を描いてもやわらかみが勝ち、北畫の山水は剛さがまさつてゐる。我が國では昔から南畫が喜ばれてゐたが、今日でも山水畫といへば、南畫が若しくは南畫の傾向をもつたもので、非常な勢を以て流行してゐる。

日本畫

一體日本畫は山水、花鳥、人物等を紙又は絹に描く場合に、その線や點や墨色などの間に、畫家の理想を現はすことを重んじたものである。今日でも繪畫は畫面に個性が現はれなければならぬと考へられてゐる。繪を學ぶ人が初めの中は、先生に描いて貰つた手本を描寫したり、やゝ進んで來ては寫生をしたり、名畫を模寫したりして、その技術を練磨するのであるが、一通り上達した上は、模寫から離れて各自の個性を現はすことが重んじられてゐるのである。

繪畫の題材は天地間に存在するすべての物をこらへ來つて描くのであるが、日本畫では山水と花鳥を描いたものが最も多く、人物畫はそれ等と比

西洋畫

べて遙かに少い。しかし浮世繪は人物を主として描いた中にも、美人畫が最も多く、俳優の似顔繪がこれに次いでゐる。

西洋畫は主として油繪と水彩畫とであつて、寫生、寫實の畫風が古くから行はれてゐたのである。それが明治になつてから盛に我が國に入つて來て、日本畫に西洋畫の畫風を加味することが行はれたために、この二つは次第に接近して來るやうになり、今日では日本畫の中に西洋畫と殆ど區別がつかないやうなものさへある。そして寫實を主とする傾向も盛になつて來た。例へば鶏の羽毛を一本／＼細かに描くやうな日本畫は、西洋畫と非常に近いものであつて、近頃になつて現はれた著しい傾向である。

西洋畫で日本畫には殆ど見られない特色は、男性女性の肉體美を好んで描くことである。殊に油繪に女性の裸體畫の頗る多いのは、日本畫では全く見られないものである。

明治から大正へかけて漫畫といふものが現れて來た。これは新聞雜誌に主として時事を諷刺したものや、風俗を滑稽化したものなどを描いたもの

漫畫

裸體畫

で、をかしみといふことが其の生命である。人物の顔を描くのに、その人の特長を巧みにさらへて描くのが、漫画の特色となつてゐる。今日では漫画は新聞雑誌に無くてはならぬ愛嬌ものとなつてゐる。

現在の美術團體としては、文部省内にある帝國美術院が最も有名でもあり又大きくもある。美術院では毎年東京府美術館に美術展覧會を開催し、毎年度における美術界の最も優秀な作品を出した作家には、美術院賞を與へることになつてゐる。その他帝室技藝員、日本美術院、二科會、春陽會、國畫創作協會、光風會、太平洋畫會、日本南畫會、自由畫壇、槐樹社、新興大和繪會、日本漫畫會、朱葉會、婦人洋畫家協會、日本創作版畫協會、九科會、中央美術社、日本水彩畫會、水繪聯盟、關西美術會、日本漫畫家聯盟、大阪市美術協會、裝飾美術協會等頗る多い。

美術團體

趣味篇

登山の智識

自然の大殿堂
緑滴る勇壯極まりない夏の山の姿、雪をかぶつた靜かな冬の山の姿、いつ見ても心の躍るのは山の姿である。自然の大殿堂ごもいふべき高い山の姿である。

禪定峯入り
我が國でも昔から山に對して、愛着の心をもつた人は少くなかつた。修驗者ごいはれる人達は、富士や白山、立山などに籠つて禪定したり、山伏ごいはれる人達は、羽黒、湯殿、月山、大峰、葛城などの諸山に峯入りをした。かうした昔の山登りはおもに宗教的信仰から行はれたものであつたけれど、登らうとする心の底には、體を練り心を鍛へる意味が籠つてゐたのである。まことに登山は、いつの時代にも身心陶冶の絶好な運動である。

身心陶冶

趣味篇

日本アルプス

今や我が國でも宗教的信仰からする、いはゆるお山登りの時代は過ぎ去つて、登山はまさに新時代の國民の新慣例となり、盛に山に登るやうになつて來た。富士や白馬はいふまでもなく、その峻険を以て日本アルプスと名づけられる信州飛騨の兩山脈も、はや幾多の人によつて踏破され、萬人に向つて解放されやうとしてゐる。若い國民の元氣、氣力、銳氣を養ふには山登りのやうな豪快な運動によらなければならぬのである。

日本は世界有数の山國で、國內到る所美しい山が聳え、険はしい峰が連なつてゐる。されば山岳に親しみ、山岳的興味を味はうと思ふ人にとつては、日本は他に得がたい好い舞臺である。かやうに山に恵まれた日本國に生れて來た我々は、自然と山に親しむ機會が多いのであるから、登山熱は將來ますます盛になるであらう。

日本アルプス
と歐洲アルプ
スとの比較

日本アルプスはその山容、その膚はだの線がいかにやさしい美しさをもつてゐる。これは突兀たる歐洲アルプスには見られない特色である。又日本アルプスは黒部谷のやうなもの凄じい森林に覆はれた深い澤があつて、澤の

探險がまた一つの興味となつてゐるが、スイツルのアルプスではかやうな樹木の密生した深い谷は見はれないし、また密林の間にさわやかな瀧がかゝつてゐる一層の美觀を呈してゐるが、歐洲アルプスでは大きな瀧があつても、山そのもの、姿があまりに偉大なために、目立たなくて少しも興味をそゝらないのである。全山脈の大きさ、山容の峻高、山色の澄明、氷河の壯觀などは歐洲アルプスの特色で、日本アルプスはその等の特では遙かに劣るけれど、日本アルプスには今言つたやうな優れた點を有つてゐるのである。

一體歐米の登山者が目的とする所は、心身の鍛錬といふ點もあるが、主として自然の研究である。雄大な尊嚴な大自然を慕ひ愛するためである。それ故彼等は心の底から山を愛し慕ひ、萬人のために山を出來得る限り自然のまゝに保存して、少しもそれを傷つけないやうに心がけてゐる。例へば偃松を伐つて焚いたり、高山植物をむやみに採つたり、雷鳥や羚羊などの珍らしい鳥獸をむやみに捕つたりすることは、互に戒め合つてゐる。た

自然の研究

豫備智識

ごひ學術研究の資料のために、高山植物を採るやうな場合にでも、決して多くを採らない。かやうに登山道徳觀念の強いのは、彼等の心の奥底に常に山に對する尊敬と愛慕の美しい思ひが流れてゐるからであらう。

山に登るには豫備智識の必要なことはいふまでもないが、登山の準備といつても、登らうとする山の高さ、峻しさ、山の性質、そこにある溪流の深さ、山のある地帯の氣候、それから登山の日數とか、登山者の目的とか、山に對する經驗とか、年齢とか體力とか、男女の別などによつて、各人それぞれ異ふものである。例へば登る人によつて食料の品種が異つたり、山の峻しさによつてはカンジキを要するとか、山の氣候によつては防寒着を要するとか、すべて人ご山ご氣候ごの三つによつて、登山準備の範圍が決定されるのである。

先づ個人登山と團體登山とは、どちらが有利で安全であるかといへば、多くの場合個人登山は冒險であるから危険が多い。危険に遭遇した場合に、それが一人の力では抵抗し避け得られない程度のものであつたら、遂に力

個人登山と團體登山

盡きて天運に任かせる事になり、自然悲しい結果となるであらう。團體登山はかやうな欠點を補ひ得るやうなもの、普通多數で隊を組んで行くことは、山へ行つてから不便でもあり、困難でもあるといはねばならぬ。しかし大勢揃つての日歸りの登山や、宿泊の容易に出来るやうな登山、又は準備を大規模に揃へた探險隊の登山などは、勿論危険はないといへるのである。團體登山には三人から五人位が最も適當であると考へられる。隊を組むには、先づ登らうとする目的の山を對象として考へて、人數を決定しなければならぬが、その時に組の人々の山に對する經驗の有無を調べて成るべくその平均したものを選んで、組の人たちの體質を、細かい點まで調べて置く必要がある。

團體登山には指導者を決める必要がある。指導者は山に對する經驗の最も深いものでなければならぬ。そして指導者たるものは、一行の人々の體質とか、經驗とか又は氣持とかをよく知つてゐて、山ごいふものを理解しつゝ、登山すべきである。一行の人々は指導者の命令には絶對に服従すべき

指導者

である。例へば山中で天候が險惡になつて來た時に、これからどうしやうかといふ場合には、意見が百出してなかく決論に達しないのが常であるが、その時には最後の決断は指導者が下し、一行は指導者を信頼し、その指揮に服従するのが登山道徳である。

登山者は團體としての問題をいつも考へてゐて、隊を亂だして登ることは避けねばならぬ。全體に對する不平を起して、各人が勝手氣儘の行動をとることなどは、團體として不都合なことであるから、最も慎まなければならぬ。出發した時は五人で一團となつてゐたものが、山へ行つてから別れ／＼になつて、體力の強いものは山頂に達してゐるのに、弱いものはまだ山の中腹にあるといふやうな場合は、珍らしくないことであるが、かやうな登山はよろしくない。一人が抜け駆けの功名をすることは、團體の登山では無意味なことである。それ故全體のものが最も圓滿に登山しやうとするには、團體中の最も弱いものを標準として、進まなければならぬ。登山は一行がどこまでも一緒になつて、愉快に進むべきものであるか

ら常に強いものは弱いものに力を合はせ、互に助け合ひ勵まし合ひつゝ、登れば安全でもあり、山から歸つてからの印象も、必ず愉快なものがあるに違ひない。

山中でいかなる困難に遭遇した場合でも、決して隊を分散してはならない。夏の山で嵐に遇つた時などは、努めて團結しなければならぬ。危険率の多い登山をする場合、隊中に故障の起つた時、例へば一人が睡眠の不足から身體が衰弱した時などは、登山する前にそれを解決して置かなければならない。

團體として登山する場合には、食料とか寫眞機とか藥品とか防寒具などの携帶品は、全體としての點から考へて準備すれば、全體としての費用や勞力が節約される。高山に登ると高さの相違、氣候の相違などから消化器に變調を起し易いから、それによつて全體としての食糧の準備を考へなければならぬ。消化器に變調を起したため、睡眠の出來ない場合があるが、この睡眠不足と消化器の變調とは、登山についての大きな故障であるから、

山の問題

その點はよく考へて置かねばならぬ。それには出來得るならば、登山前に豫備的準備として運動を勵み、身體を練つて置くことが大切である。

次には登らうとする山の問題である。初めて登る人はすでに他の人が踏破した山さか、又は天候の明かに判つてゐる山さかを選ぶべきである。その山に慣れることによつて、次第に山全體に慣れるわけである。山に慣れることは、山上で災難に遭遇した場合に最も役立つ精神上の餘裕を養ふことが出来る。山登りを試みるものが岩壁の性質の判つてゐない先人未踏の山に登ることは慎まねばならぬ。

登山する前に山の地形を詳細に知つて置かなければならない。その豫備智識を有つてゐれば、危難の迫つた場合に、迷はずに下ることも出来るし、又渡渉することも出来る。それから山の地質も或る程度まで知つて置いて、登らうとする山が火山性のものであつたら、それ相當の飲料水の用意もしなければならぬ。山にはそれ／＼特質を有つてゐる。その山に特別の雲が出れば、天候が急變することを豫測されたり、或る種類の風が吹き出す

山の地形

山の地質

地方の氣候

急に雨が降ることを豫測されたりするものであるから、其の時には案内者の言葉を信じて、應急策を講ずるやうにする。

次には山の在る地方の氣候の問題である。初めて登山するには、梅雨期後から八月中旬まで、又は高山植物の美しい時期を選ぶべきであるが、何れの時期にしても、山上の天候は平地と異ひ變化が激しいから、それによつて衣服や携帯品のことを考へなければならぬ。例へば雷雨に襲はれて谷に下り、山なだれに遭ふやうな特殊な場合の用意としては、いかなる携帯品が必要であるか、又雨の多い山であつたら必ず木藁蓆を携帯するとか、渡渉の多い山であつたら、草鞋を用意して行くといふやうに、すべて微細な注意が必要であるから、登山前に天候のことをよく考へて、それによつて携帯品を準備すべきである。

登山者の考慮

かやうに登山は人と山と氣候の三つがよく調べられてゐて、登山者自身の頭の中でこの三つを統一してゐなければならぬ。若しこの三つの中の一つが、登山者の考慮から忘れられてゐたら、その登山は失敗に終るもの

といはなければならぬ。

山登りは決して急いではならぬ。足の裏全體を山の斜面につけて、ゆつくりと登らなければならぬ。歩調を早めて爪先きで登るやうな登り方は登山の技術として拙なものである。

二種の危険

登山の危険には、避け得られる危険と避け得られない危険と、二つの場合があるが、それははつきりと區別することは出来ない。大體登山の経験から考へて、避け得られない危険は、高山で雷雨に遭ふこと、意外の場合に岩崩れに出會ふこと、突然吹雪に遭ふことなどで、その他の危険は用意さへ周到であれば、大體において避け得られるものと考へてよい。

露营地

露营地としては風の當らない、水の便利のよい、且つ燃料に乏しくない平坦な土地が最も適する。そして出来るだけ明日の出發に都合の好い地點を選ぶことが大切である。露营地には遅くとも午後三時頃までに着くやうにする、そして露营地に着いたら、一行の人たちはよく心を合はせて、快活に露營の準備にかゝらねばならない。

日本アルプスを「山の王座」とあこがれる山岳禮讃の、幾萬の登山者をひきつける理由は何であるか。登山する人々の目的に相異はあつても、かく多くの登山者の心を魅するものは「万年雪」と「お花畑」である。万年雪は多く「雪谿」の形において見られ、規模の廣大を以て有名なものに白馬、針ノ木、槍澤などがある。殊に白馬の雪谿は長さ二十數丁に達し、その雪谿の縁を彩つて咲き亂れるお花畑と共に、高山の美を發揮してゐる。

雪谿

「雪谿」はどうして出来るか。万年雪の名を以て呼ばれ、盛夏にも底知れぬ大雪量が深い谷を埋めてゐる。この大量の雪は、冬季における降雪の堆積には違ひないが、その場所に限つてかく多量の降雪がある理はない。アルプスの万年雪の多くは、いはゆる「吹溜り」と「雪崩」の作用で、谷を埋むる雪谿となるのである。實際雪谿を作つてゐる谿谷の雪量は絶大なもので、單に吹溜りの作用ばかりでなく、その谿谷に面した谷や絶壁が振り落した雪崩が、積り積つてこの大量をなすのである。

アルプス山彙中の多くの峯は、「岳」の名によつて呼ばれてゐるが、この「岳」といふ言葉と、富士山、淺間山などの如き「山」の名で呼ばれてゐる山岳とは、感覺の上から自から山岳の特質に差異があるやうに感ぜられる。そして「岳」の言葉の内には、重疊した山岳を想像せしめ、深さと力と、更に又官能的な神秘の感を伴つてゐる。アルプスが山岳の王座として仰がれるわけは、この意味の「岳」の禮讚に外ならない。

更に又登山者の心を深くひきつけるものは、富士山が「眺める山」としての山容の秀麗を特質とするに反して、アルプスは「見えざる嶺」であるからである。槍、穂高などがアルプスの中樞として共に一萬尺を凌ぐ高さをも有しながら、重疊たる山彙の中に埋まり、容易にその頂をすら望み得ないことや、その山容が複雑な峻嶒奇峯を作つてゐることが、人の心を大いに動かすもので、やがてそれは近代人の思想感情に合致した多くの暗示を有してゐるからであらう。

何を求め、何にあこがれて登山するか、山岳を無窮に捧ぐる天壇として、

山容

學術研究

修験の道場として、宗教的信仰心を以て登る人々は別としても、山岳禮讚や山を慕ふ心の裡には、かうした考へ方が、すべての登山者の心を支配する感情である。

然し登山を人間生活の一つの對象として考へる時、そこに學術研究の資料を得る爲に植物、礦物、地質、氣象の調査などの目的が生じ、更に運動として肉體及び精神の鍛鍊向上を意味する登山の目的が生ずるのである。

ラヂオを聴くには

無線電話の放送は或る送話局から時間を定めて、きまつた波長の電波で講演、新聞、相場、音楽、競技の勝負などを送り出し、受話機を持つてゐる人達が、それを聴いて楽しむのである。毎日各新聞紙上にその日の番組が出るから、それを見て時間／＼に、受話機を耳にあて、それを聴くのである。

空中線

受話機

無線電話の受話機を取付ける時には、受話機の外に第一に空中線が必要

である。空中線は電波を受けるために必要であつて、丁度電波を音波と考へて見ると、空中線は人間の耳のやうな役目をもつてゐる。遠方から來た電波が、空中線にあたるこゝ、その空中線の中には電氣運動が起る。この電氣運動は電波の波の形と同じやうに起るのであるが、この電氣運動によつて受話機が働き出す。人が話を聞く場合に、耳の周圍にラツバを當がふと、遠方からの話も聞きやすくなると同様に、空中線が大きければ大きいほど遠方からの電波を受けやすくなるのである。

空中線の大きさが大きいといふ事は、實際においては、高さが高いほど大きい事になる。この空中線にはT型とか垂直型とか、或る場合には空内のみに設け得る得る所の棒型又はコイル型などがある。室内用の空中線以外は、その形は殆ど任意にこつて差支へなく、最も簡單なものは、立木の上の方からか、又は家屋の高い所から、一本の銅線をぶら下げることである。T型の空中線といふのは、二本の立木又は柱の間に、水平に銅線を張つてその中央から更に一つの銅線をぶら下げたもので、この水平に張る線

は傾斜して張つて差支へないし、又ぶら下げる針金も、必ずしも真中からやる必要もない。その外、家の周圍にいゝ加減に針金を引つかけて置いてもよいのである。

要するに成べく高い所から針金をぶら下げて、その下の端を受話機を示されてゐる所の接續子に接續すればよい。たゞ注意しなければならぬことは、これ等の針金が、立木や建物に直接觸れてゐると、電氣が逃げ出す恐れがあるから、すべて立木や建物につける部分には、碍子を介在せしめて置かねばならぬ。

空中線用の銅線はその太さは任意であるが、直径五厘位の、線番號にいひ表すこゝ、ビー、エス十六番位に當るものが多く使はれ、又ビー、エス二十番位の細い線でもよければ、十番位の太い線でもよいのである。

空中線の全部の長さは、放送無線電話の受話用としては、約百尺以下を使ふやうに規定されてゐるが、實際においては六七十尺もあれば充分であり、場所の関係でこの長さが取れない時は、二十尺から三十尺位でも差支

へない。

二八〇

空中線と共に必要なものは地線である。地線は空中線に起つた電気運動を地に導くためであつて、受話機の地線の接続子に銅線を繼いで、その端を水道線の金屬部にしばり付けるだけでもよい。

水道線のない所では、その代りに適當に地面に入込んである金物類を使つてよいのであるが、尙ほ最も簡単な方法としては、直径五厘から一分位の銅線を、垂直に地面に差込むのである。普通の地面であると、三尺や五尺は容易に差込める。更にその差込んだ所から二三尺離して、又一本を差込む、かやうにして五六本差込んだものを、適當に他の銅線で結びつけてその端を受話機の地線の接続子に繼げばよい。

地線に用ふる銅線は、出来るならば深いほどよい。又差込む數も五本より多いほどよい。地質が硬くて銅線が差込めない場所では、地線と同じ位の太さの銅線を心としてゐる所の被覆銅線を、長さ五十尺位地面に這はせる。出来るならかやうなものを二三本這はせて、それ等の一端を互に他の

銅線で繼ぎ合はせて、それを受話機に導くこともよい。數本の被覆線を這はせる時には、成るべく放射状にある方がよい。これで空中線に屬するものが揃つたことになる。

受話機は空中線に起つた電気運動を、受話機に働かせて、耳に音を感じさせる爲のものであつて、その主要な部分は検波器といふものである。一體無線電話の送信機で送り出す所の電波といふものは、電波固有の極めて迅速の運動と、音波の形との合成したものであつて、この電波が空中線に當つて起る電気運動は、又これと同じ形で行はれる。かやうな電気運動が受話機に働いたとしても、これは直接に人の耳には感じない。

検波器といふものはこの電波の運動と、音波の運動とを分解して、音波に對する電気運動だけを、受話機に傳へる所の役目をもつてゐる。検波器として今日最も多く使はれてゐるのは、結晶検波器と真空管検波器とである。簡單なる受話機は、多く結晶検波器を使つてゐるが、この受話機を使ふ時には、單にこれに受話機を繼ぐだけでよい。真空管検波器をつけてあ

る受話機を使ふ場合には、受話機の外に電池が必要である。

真空管受話機の中には、二個の真空管を使つてゐるものもある。これは検波器として一個の真空管を使ふ外、更に真空管を利用して、受込んだ電気運動の勢力を補ふためのもので、多数の真空管をつけてある受話機ほど受話機に感ずる音が強くなる。

高聲機といつて強い聲で受けた音を聞取る機械があるが、これを使ふ場合の受話機には、真空管を多く使つてある受話機ほど都合がよい。勿論高聲機は受話機に代るべきものであるから、これは受話機の接續子に繼いで用ふべきである。

真空管にはフィラメントといつて、普通の電球の光かる針金と同じやうなものがある。このフィラメントを働かすための電池を、A電池といつてゐる。A電池は蓄電池が多く使はれてゐる。A電池は多数の真空管を使ふほど大きいのがよいのである。

なほ一つ真空管を使ふ受話機には、B電池といふのが必要である、B電

高聲器

フィラメント

電池

真空管

池は小さい乾電池でよい。蓄電池はその電気を使つてしまつた後は、又これに電気を與へるやうにして、長く使ふことが出来るけれど、乾電池はその電気を使ひ切つてしまふと、更に新しいものと取換へてやらなければならぬ。

この蓄電池に電気を與へてやることを充電といつて、この充電は電気屋に依頼してもよいが、充電器を用ひて、普通電燈から簡単に自分でやることも出来る。

受話機には種々の型があつて、取扱ひ方も一様でないが、その必要な事柄は同調といつて、受ける電波に調子を合はせること、検波器の取扱ひ方である。同調については、多くの受話機が一個又は二個以上のダイヤルといふ回轉する圓盤を備へてある。この圓盤を廻して見て、最もよく聴こえる點を見つけることが、同調といふのであつて、これは實際の受話機について一二度やつて見ると、子供にでも直ぐその適當な状態が判かる。

検波器の取扱ひ方法は、結晶検波器であつたとすれば、その検波器の小

充電

同調

ダイヤル

さい把手をもつて、結晶物に接觸の仕方を加減して見ると、容易によく聞こえる状態が判かるのである。

加減抵抗器

真空管検波器並に受信の聲を補ふ所の真空管（この真空管を増幅真空管といふ）を使ふ受信機においては、多くフィラメントに通す電流を加減するためには、加減抵抗器といふものが附いてゐる。そして加減抵抗器にも亦ダイアルが附けてあるから、これを適當に廻して見て、真空管のフィラメントが餘り光り過ぎないやうに加減する。何故ならば、フィラメントを餘り光らせるに、その線が切れてしまふ惧がある。それが切れた真空管はもはや廢物となつてしまふから、その點は最も注意しなければならぬ。

手續

放送無線電話を聴くには、どんな手續をすればよいかといふに、逓信局長宛に放送局の承諾書を添えて、許可の申請書を以て出願すると、適當に認められた人に許可される。そして逓信省検定済みの機械を設けて、工事落成届を提出し、検査を受けて始めて許可される。料金は納入告知書といふものが、逓信局から來た時に納めればよい。放送局へ納める聴取料金は、

集金郵便で通知された時納めればよい。

映畫の出来るまで

映畫脚本

活動寫眞がスクリーンに映されて観客に見せるまでには、随分複雑な過程を経て來るものである。先づ第一には映畫の脚本が必要である。これは我國でも歐米でも、所謂原作ものが多い。原作ものといふのは有名な文藝家の書いた通俗小説を脚色して映畫にするのである。この原作ものは必ずしも藝術的に傑れてゐるといふ意味ばかりでなく、大概は人氣の高かつたもの、即ち大當りを取つたもの、又は問題にされたものごかを選定する場合が多い。人氣の高かつた小説は多くの愛讀者をもつてゐるから、映畫になつた場合色々の意味で興味をそゝり易いからであつて、つまり文藝の上で親しみなり、興味なりをもつた多數の讀者を、直ぐ活動寫眞常設館の観客として引き寄せやうとし、観客の方でも自分の興味を湧かしたものを、再びスクリーンの上で具體的に見やうと望むから、そこをねらつて人氣小

説を採つて來るのである。そして特作品とか大作物といはれるものは大抵新聞紙上に連載されたものである。新聞の讀者は非常に多數であるから、その多數の人に常設館へ來て貰はうといふ商略から、新聞ものが多く取扱はれるのである。

ところが脚色者にとつては、新聞ものを脚色することはむごいことである。短篇ものであつたり、詩であつたりする場合には、原作ものゝ脚色は楽しい仕事であつて、脚色者に創造的想像力を働かせる餘地があり、この場合原作は一個の暗示的存在となり得るのであるが、新聞ものとなるに、限られた巻數に何百回といふ連載ものを收める爲には、話の筋を追ふだけで一杯である。その上讀者の方では毎日の出來事をよく知つてゐるから、省略などもうつまり出來ない。しかしかういふ原作ものは、大抵の場合少し位映畫的講成に破綻があつても、觀客は興味をもつて見るものである。だから普通脚色者は可なり興行價值のある作品でない限り、創作脚本を映畫會社へ提出しない。脚色者は會社の意圖による物語を貰つて、それを脚

脚色

臺本

色する方が多い、そしてその物語を所長や監督や、場合によつては俳優なども演出の方針を協議した上で、短時間の中にシナリオに作らなければならぬ。我國でも四時間で一本のシナリオを書いたレコードをもつた人がある位である。出來上つたシナリオは脚色部長や監督が目を通して色々註文を出すこともあつて、そこには論争の花が咲く。かくしてシナリオはコピーの方へ廻はされて、臺本として印刷され、それが監督の方へ廻はつてから「本読み」といふことになるのである。即ち俳優一同に臺本を讀んで聞かせるのである。

撮影

次には撮影が開始されるのであるが、現在の我國の監督の仕事としては單に撮影監督をするばかりでなく、俳優の配役、大道具小道具、衣裳、ロケーション、ハンテイング等の労働が伴ふもので、一切の手配をして撮影開始に至る準備を一人で整へねばならず、その上撮影費用の問題までも撮影所の當事者と煩雜な交渉を重ねねばならない。撮影監督は苦勞の多い仕事である。

撮影監督

監督として立つ上において最も重要なものは、経験と映畫的感覚と組織的能力である。経験といつても單に肉體的の経験をのみ意味するものではなく、却つて心的経験を主とするものであるが、それは映畫が情感の發現であるからである。映畫的感覚は文字によつて書き表はされた動作を活躍させる能力であつて、その感覚が敏感であればある程、その監督の作品は良き映畫であるといひ得る。現在の映畫界にあつて偉大なりと稱せられる幾多の監督は、何れも優れた映畫的感覚の持主である。

映畫劇は光線と陰影の交錯によつて表現されるもので、映畫劇が音楽に最も近い藝術である以上、映されて光と影との構成する交響樂にもたとへ得るもので、その監督はこの交響樂の指揮者ともいふべきものであらう。

次に撮影の巧拙は映畫の生命を左右するもので、撮影技師は一個の技術者であるばかりでなく、優れた藝術家でなくてはならない。カメラの取扱ひ方は一般に可なり簡単に考へられてゐるが、實際は決してさうではなく、被寫物を眼で見る場合と、カメラを透して見る時とは、其所に意外に大

映畫劇

撮影の巧拙

カメラマンの苦心

きい差違があるもので、カメラマンの苦心がそこに潜んでゐるわけである。例へば或る女優が泣く場面を撮影するのに、普通涙を流すには目薬、グリセリンなどを使つて涙を寫すのであるが、或る監督がその女優に眞實の涙を流させた。そしてそれをカメラに收めて試寫して見ると、女優の頬を流れた筈の涙は、少しもスクリーンに表はれてゐない。その理由を研究して見ると、涙の頬を流れる速度があまりに早く、カメラに攔み得なかつた失敗であるに判つた。グリセリンで流す涙には粘液があつて、その粘液味のある涙は、カメラの廻轉速度でうまく撮り得るのである。カメラマンの世界には一般人の覗ひ得ないかうした苦心がある。彼等が最も苦心するのは雪と海と空との撮影であるが、近來ハンクロマチック、フィルムの使用によりて、従來とは全くその巧みさを異にした優れた雪や海や空の撮影が行はれるやうになつた。

我國のカメラマンの仕事は、現像整理は勿論、映畫の巧拙を決定する映畫構成上最も重要なカッティングまで引受けてゐる。だから一人前の新進

カメラマンとして斯界に出るまでには、五年間の修業が必要とされてゐる。そしてロケーションではなく、セツトが巧に撮れるやうになれば、優秀なカメラマンといへるのである。

映畫俳優が常に心掛けてゐなければならぬ訓練は、舞臺演技の場合と比較対象して容易に肯定されることである。脚本が決定され、本讀みが終つてから、俳優達は自分の役柄を考へて、大體の纏りが頭に浮ぶ、自分の動きを工夫して見る。そして不満足な所は監督に相談し、新しい構想が出来上り、いよいよ撮影に着手するのであるが、舞臺演技は追想を許され、前日の失敗は翌日これを改めることが出来るが、映畫では一旦機械を透して收められた演技は、殆ど永久に繰返すことを許されない。こゝに映畫俳優としての歡喜と悲哀とがある。

撮影が開始されると、當面の問題は各人の演技であるが、すべて藝術は何ものかによつて表現される。俳優は監督の要求する演出法によつて、藝術を表現するのであつて、それには演出法が洗練されてゐなければならぬ

映畫俳優

演技

い。即ち俳優の身體の運動が平均に發達してゐて、俳優になるまでの生活において、又日常生活において慣習となつた癖が取り除けられ、そして日常生活においては注意されてゐなかつた、或る部分の表情と神経が發達してゐなければならぬ。若しこの訓練が出来てゐない時は、いかに監督の要求する演技が理解出来ても、表現が思ふやうに動かないために、劇全體をも傷つけるやうになる。俳優は人間生活を深く鋭く觀察する必要がある。つまり人間生活の形式と心理に精通することである。上流社會の禮儀作法から、下流社會の生活狀態迄を知り、又種々な性格の型とか、喜怒哀樂に應じて心理作用とか神経作用とか、凡て人間の社會生活及び心理生活を廣く研究し、續いて理解より表現に移す迄の手段をも研究する必要がある。

俳優は佳い映畫を常によく觀、佳い芝居を常によく觀、佳い音楽をよく聽いて、一般人には單なる娛樂も彼等にとつては學問である場合が多く、教へられる點が頗る多いのである。

カメラマンによつて撮影され、焼付現像が終つて、いよいよ立派に出來

上つて、常設館のスクリーンに寫されるばかりになつた映畫は、警視廳の映畫検閲室において係官に毎日検閲される。そして風俗上治安上不良と認定された場面は、直ちに削除されるのである。映畫の春秋のシーズンには、毎日の検閲が百巻から二百巻に達するといふが、その中四割が外國もの、六割が日本ものである。

現在次週上映映畫が決定するのは土曜日の夜で、プログラムの順序を決定し、直ちに宣傳に取りかゝり、ポスター、チラシ、新聞廣告の文案圖案、立看板の構圖、プログラムの原稿などを日曜日の夜にそれ〴〵印刷所や看板製作所に廻し、火曜日に出來上つて來たものを市内に配布し、水曜日には説明者、映畫伴奏曲目の選定者に試寫を見せ、木曜日の新聞夕刊に金曜日から替はる廣告を出すまで、實に慌たゞしい劇務である。映畫館は一週間毎に映畫が變更され、初日の金曜日の翌日は次週の映畫決定の土曜日が來るのであるから、映畫館經營は實に永遠の戰場といふべきものである。

海水浴と水泳

海水浴や水泳がいかに我々の身心に影響するか、といふは單純なるものではなく、そこに色々の關係がある。

第一には水中における運動そのものによつて、我々の身體を鍛える。この運動は陸上の空氣中に於ける運動とは頗る趣がちがつて、水といふ抵抗のあるものゝ中に於いて、運動するのであつて、その抵抗は全身に平等に亘つてゐるので、身體の運動は絶えず弾力性に富んだ運動をする。それは陸上の運動とは非常にちがつてゐるのである。

第二に水の寒冷なために我々の皮膚を刺戟し、ひいて神経系を刺戟し、又血液の循環は血液が内臓その他身體の中心部に集まつて、皮膚のやうな表面の部分には少くなる。この状態もまた陸上の運動に於いて見ることに出來ない現象であつて、これは身體のために良い結果を來たすが、又一面に於いてその方法を誤ると、悪い結果を來たすのである。

第三には十分なる日光と新鮮なる空氣が、身體のために非常な好影響を現はす。これも陸上に於ける種々の運動よりも優れてゐる。

第四には洋々たる大海に於いて大自然の懐に、心行くばかり浸り得るこゝいふことが、我々の精神上に非常な好影響を來たす。この大自然の中にあつて、何等の苦惱を感じずに、心中無一物になつて水に浸るといふ事は、都會生活者や種々の業務に就いてゐる人達には、到底味ふことの出來ない幸福である。

海水浴について我々の身心に影響を及ぼす事柄は、大體これ等が主なものであらう。そしてこれ等は合理的にこれを利用すれば、何れも我々の身心には有益なものであつて、殊に教育期にある少年、青年、又平素快潤な生活をするこゝの少い婦女子などには、非常に良い影響を來たすのであつて、子供の如きは夏季一ヶ月の海水浴によつて、一年中の成長發育の大部分をなし遂げたといふ例もある。殊に虚弱なもの、健康を回復することは實に著しいものがある。

しかしその方法を誤ると、これがために却つて身心を害することがある。大體に於いて海岸生活は刺戟が多いから、神経質な子供や神経衰弱又は肺結核の可なり進んだものなどには不適當であつて、これ等はむしろ陸上の高い涼しい所の方が好い。その他身體に異状のあるものは、醫師の意見に従つた方が安全である。

海水浴をやるのに第一に注意すべきは、場所の選定である。それは一土地の清潔な所、二傳染病の無い所、三物資の供給が相當に良い所、四氣候の變化の少い所、五水溫の餘り低くない所、(攝氏二十度以下は冷た過ぎる)六海底が清潔で多くの人が入つても水の濁らない所、七整すクラゲの居ない所、八その町に傳染病がなくとも、大きな川でも通つてゐると、その上流にある傳染病菌が海の方へ流れて來る危険があるから、その上流についても注意する。以上の諸點について十分にその場所の選擇を誤まらぬやうにしなければならぬ。

我々の身體が海水浴に適するかどうかといふことは、たゞ海水に入るだ

二九六

けで、激しい水泳をしないのなら、病氣のない者なら大體良いのであるが、しかし水泳でも可なりやらうといふなら、身體の強壯なものでないといけない。殊に心臓病、脚氣、肺尖カタル、肺結核、肋膜炎、腎臓病、中耳炎その他の耳病などがあるものは概して良くないから、さういふ人達は必ず醫師に相談した上で決めなければならぬ。

次に年齢はたゞ海水に浸るだけなら、強壯な子供の五六歳からやつても好いが、水泳は大體において十二三歳以上でないといふ好くない。これは體質によつて決める必要がある。

海水に入る場合に、興味にまかせて過度に入つたり、又は水泳を續けることがあるが、強壯なもので馴れた場合なら、さういふことも身體に害を來たさないが、さもないとそれがために却つて健康を害すことがある。それ故先づ最初の第一日には、年齢によつて多少違ふけれど、五分間か十分間位、たゞ一回水に浸り、二日三日と馴れるに従つて、時間を延ばして行く。それから寒い日や水の冷たい時には、時間を短縮しなければならぬ。

この標準は顔面殊に唇、手の爪などに注意して、それが貧血でもして蒼白色になる程度に至らぬやうに注意しなければならぬ。かやうな程度に至れば、それは既に度を過してゐる徴であるから、子供を保護してゐるものは、この點に絶えず注意して、かういふ程度に至つたなら、直ぐ上陸させて温かにし、それから靜かに休ませなければならぬ。

水に入る回数は、初めは一回にして置いて、馴れるに従つて一日二回位になつても好いが、海に入ることが薬である如くに考へて、一度でも多く入つた方が良い結果を來たすと思ふ人もあるが、それは非常な誤りである。水中運動は陸上の運動よりも一倍疲労が多く加はるから、その後における休息も陸上運動よりも多くしなければならぬ。初めて海に入ると非常に疲労を感じるものであるから、よく休息することが必要である。

食事の前後一時間間位は、水へ入るのを避ける方が好い。殊に食後の水浴は、食前の水浴よりも悪い。一人で海に入ることには、いかなる危険が起るかも知れぬから、斷じて避けなければならぬ。それからその土地の人

水泳の練習

によく聞いて、水の瀬があるか無いか、又はどういふ時にどういふ危険があるかなど、いふことを、豫め知つて置く必要がある。

水泳を練習するには、大體において自分の力を信じ過ぎて、冒險をやることは危険である。相當泳げる人でもその年初めて海に入るといふ時には、まだ身體が馴れてゐないから、昨年練習した時のことを思ひ出して、急に昨年の程度にやり出すと、これは非常に危険があるから、身體の馴れるまでは徐々に進めて行かなければいけない。この注意を怠つたために失敗した人が澤山ある。殊に水温の低い時に飛込みなどやつて、深く水中にもぐり込むと、陸上の温かい所から俄に低い温度の冷水に入つたため、心臓に急激な變化を來たして心臓麻痺を起すといふこともあるから、かういふ飛込みなどは、相當その土地に身體を馴らしてからやらなければならぬ。

皮膚の弱い人は時々日にやけて、非常に苦しみを感じることもあるから、一般に初めて海水に入る時には、水衣（みづえ）とかタオルとかで皮膚を保護し、二三日とか四五日の間に段々身體を馴らして、日光に曝露しても故障のない

皮膚の保護

やうに注意すべきである。人によつては皮膚に濕疹を生じて、容易に癒らぬことがあるが、これは皮膚の弱いためであるから、そんな人は海水から上つたら、眞水でよく身體を洗ふのが好い。

それから耳の悪い人は特に注意しなければならぬ。一體耳が健全であれば、外聽道に海水が入つても直ぐ出てしまつて、少しも害を残すものではないが、耳垢があつたりすると、それに水が滲み込み、それが腐つて炎症を起すことがあるから、豫め耳垢をよく取つて置かなければならぬ。鼓膜が破れてゐたり、外聽道炎があつたり、或は中耳炎があつたりすると、そこに海水が入ると害をするから、さういふ人は耳の中に海水が絶對に入らないやうにする。それには綿を詰めるのも良いが、普通の綿よりも硼酸軟膏でもつけて入るか、又はパラフィンなどを詰めるのも好い。しかしさういふ人はそんな危険を冒すよりも、耳の中へ海水の入らぬやうに注意して、たゞ水に浸つてゐれば安全である。

耳の保護

過度の運動

虚弱な子供が海水に入つたり、過度の運動をしたりしたために、知らぬ

間に軽い三十七度一二分といふやうな熱を出すことがある。これは一般に極めて軽いものご考へてゐるけれど、實はこれが結核を疑はしめるもので、非常に注意しなければならぬ。さういふ子供にはあまり運動させないで静養させるが好い。これは大人にも時々見ることである。

少年や青年が海岸へ行くと食慾が非常に進み、食べ過ぎて胃腸を害するところがあるが、又反對に食慾がなくなることもある。食慾がなくなるのは多くの場合運動が過度であるか、體質が虚弱であるか、海岸の刺戟に負けるかのために起るのであるから、さういふ場合はよく原因を考へて、運動が過ぎるならば運動を制限し、海岸の刺戟が強過ぎるなら、家の中で新鮮な空氣の所に静養した方が良いのである。

家庭篇

家庭

家庭は祖父母、父母、夫婦、兄弟、姉妹などが寄り集まつて、親身の愛情によつて作つた小さな社會である。我れ／＼はこゝに生れ、こゝに生長し、こゝに生活の完成を圖らうとするのである。

我が國の家庭は根本の國家が大和民族を中心として發達し、皇室を幹として國民が枝葉のやうに榮えて今日に至つたのであるから、畏多いことであるが、皇室は我れ／＼の總本家とも仰ぐべきもので、我れ／＼は互ひに皆皇室の分家ともいふべきものである。だから國全體がすでに大きな一家であつて、皇室と國民との間にも、義に於ては君臣の間柄でも、情においては父子であつた。これは日本民族が世界に誇るこゝの出来る美しい組織

である。

個人制度

國全體がすでにさうである上に、建國以來我れくの祖先は、親より子へ、子より孫へと、子々孫々に「家」といふものを傳へて、こゝに一家一門が相助け相榮えて、極めて美しい小さな社會を作るやうになつた。西洋諸國は概して個人制度の國であるから、その家庭といふものも、殆ど先祖には關係はなく、夫婦と子供とだけであるから、家といふ觀念は極めて弱く、個人の名譽は尊重するけれど、日本のやうに家の名譽や先祖の名譽などは格別重んじない風がある。我れくの「家」といふものは、西洋諸國の「家」とは比べものにならぬほど、古い歴史とこれに伴ふ根強い力を有つてゐるのである。

家族制度

家族制度は家を重んずる我が國特有の美風であつて、外國で事業をしてゐても、少し成功すると郷里が戀しくなつて日本へ歸つて來る。これを日本人の世界を家とする氣概のないのだと非難するけれど、日本人が昔から家を受し、祖先を敬ふ心の厚いことを考へれば、そこに無理ならぬ理由も

民法上の家族

ある。美しい家族制度は世界の模範とするに足るのであつて、これは我が民法の上にも表はれてゐる。

一般に家族といへば、家庭に生活する人々の總稱であるが、民法では戸主によつて治められる父母、妻子はもとより祖父母、兄弟、伯叔父母などをいひ、戸主は家を治め、家を代表する家長をいふのである。

戸主と家族

戸主は法律上家族を養ふ義務があると同時に、その家族を支配する権利がある。即ち戸主には家族の居所を定めたり、家督相續人を廢除し、又は指定する権利があり、家族の婚姻、養子縁組、入籍、離籍等もまた戸主の同意がなければ出來ない。

かやうに戸主たるものは、法律上家族を養ふ義務があるが、又家族としては戸主に對する義務があつて、仕事をしないで寄食することは、個人の我儘が過ぎて社會生活に害をなし、終には一身の破滅や一家の破滅をも來すことになる。

戸主たるものは祖先からうけ繼いだ一家の支持者として、その責任の重

家族

大なることを自覺し、自分の職業を勵み、外に對しては家長としての體面を保ち、内に對しては家族をよく養はねばならぬ。

家族たるものはその團體の中心たる戸主を尊び、その命令に服従し、各自分の本分に應じてその務を果し、互に協同一致し、一家和合して家運を盛にし、遠い昔から養ひ來つた我が美しい家族制度をますます發達させて行かねばならぬ。

父子同居

祖先に權威を置き、子孫永く傳承するのを本意とする。我が國の家庭の成立つ中心は父子の關係である。そこで子たるものは結婚すると同時に別に新家庭を構へない。殊に長子は父の家にあつて相續の責を果す風がある。西洋では夫婦關係を以て家庭の基礎とし、結婚すれば直ぐ新家庭を構へる風があるのと趣が異つてゐる。我が國の家族組織は概して複雑で、祖父母父母兄弟の夫婦までが、一つ家に生活する風があるので、家族相互の間の思想感情の衝突により、家庭内に不和を生じ離婚が行はれる原因となつてゐる。殊に近年新思想が普及し、個人の自覺が生ずると共に、生活上新舊

父子別居

思想感情の衝突が到る所に起り、父子別居主義を唱ふるものが出て、これを実行するものが次第に増加する傾向がある。

個人關係の複雑なのは社會の常態であつて、老人も幼兒も、男も女も、父子夫婦などが生活を共にするのは、子供に社會的共同生活の精神と方式とを教ふる上に甚だ便利な組織である。殊に複雑な家族が同胞骨肉の親密な自然關係においてよく調和する状態は、家庭教育上の理想條件である。

而して我が家族制は國體に相應する歴史的古制であつて、教育上有効な多くの美點を有するのであるから、今後も根本的にこれを改廢すべきものではない。たゞその眞意義を考へ、新時代新思想に適應せしめて、その價値を發揮する方法を講ずるがよい。その方法は人格の尊いわけを認め、個性の自由を許し、人々相互の愛情と理解とによる道德的結合を以て家庭の內容とするのである。個人の自覺がますます強くなる今後の社會に於ては、單に祖先の名目や古來の習慣などばかりを統一の原則として、各人を満足させることは出来ないから、現在の思想に適合し、新時代の原動力となる

日本の家族制

やうな合理的根據がなければならぬ。

日本の家族制は兎角人格を軽く見る弊があるが、その根柢において人格は最も重大なものご考へられる。祖先の靈魂に信賴し、その意思を奉ずることを重んずるのは、生命の永遠性、人格の繼續性に對するあこがれを示すもので、この生命、人格を以て根本とすることに於いては、個人の發展を慾求する今日の思想と全く一致するものごいふべく、又この兩面の思想を欠くならば、我々の生活の意義は忽ち空虚となるであらう。それ故生命の意義を悟り、人格の尊貴を知り、これを以て生活の出發點とする事は、我が古來の家族制の眞意義を、今日の時代に發揮することにもなるご考へられる。

かやうに家族制を考へて、家庭生活において各人がこれを方針として進むならば、圓滿なる家庭は成立するに至るであらう。そこまでに至る過程としては、或は古來の形式によつて家庭の幸福を圖る場合もあるべく、或は夫婦を以て中心とする西洋式の新家庭を營む場合もあるべく、各家庭の

事情に應じて、成るべく家庭の眞意義を實現するに努むべきである。

親 子

親は子に對して一定の權利をもつてゐる。これが親權である。親權とは子が成年に達して、獨立の生計を營むことの出来るまで、その子の身體の保護監督及び教育をすること、主なるものは居所を指定する權利、兵役の出願を許可する權利、職業を許可する權利、懲戒する權利、財産を管理する權利などである。

親權は父が行ふものであるが、父がない時には母が代つてこれを行ふ。若し又父母ともに無いとか、よし有つても禁治産者のやうに親權を行ふことが出来ない場合は、親族會議により後見人を定めて、これに親權を行はしめる。

民法に規定された親子の權利義務の關係は、以上の通りであるが、然し我々は親子の間には、法律規則を超越した骨肉の愛がある。子を思ふ親の

愛情は、法律で定められてゐるからのことではなく、子としても法律に定められてゐるから、親に服従するとか、成年に達して獨立したら服従しなくもよいとかいふものではない。親子の間は夫婦や兄弟などの間も同じことであるが、権利を主張するよりも、愛情を以て結ばるべきものである。親子や血族の間に若し愛の結合が切れてしまつて、問題を法律の裁決に待つやうになつたら、もうそこには家庭生活の美しさも楽しさもなくなつてしまふのである。

實の親子でなく、養親子の間には骨肉の愛情はないけれども、そこには義理といふものが出来る。義理とは自然の情愛の外の道徳であつて、義理の上の美しい涙ぐましい物語は、特に我れ／＼日本人の祖先に多かつた。親は子のため、子は親のため、義理人情を盡す所に、人間の心の美しさがあるのである。

家族の中で最も關係の深いものは親子であつて、實の親子は自然の血縁による親子であるが、養親子はもと他人同志であつたものが、養子縁組に

養親子

義理人情

離縁

親族

よつて親子となつたものである。法律上の關係は實親子も養親子も同じであるが、たゞ養子縁組は双方の協議により、又はどちらかに重大な過失などのあつた場合には、離縁によつて親子の關係を解くことが出来る。

世間で俗にいふ親族とは親類とか親戚とかいふのと同じで、單に身よりの者の總稱であるが、民法上の親族とは六親等内の血族と、配偶者と、三親等内の姻族をいふのである。血族とは互に血縁を有するもので、姻族とは配偶者の血族のものである。

親等とは血縁の親疎の差を明かに區別したもので、自分より上は父母を一親等とし、順にさかのぼつて六世の祖に至るまでを六親等に分け、自分より下は子を一親等とし、六世の孫まで順に下つて六親等に分ける。そして自分より上の六親等を直系尊屬といひ、自分より下の六親等を直系卑屬といふ。

直系尊屬

親等

血族姻族

直系卑屬
傍系

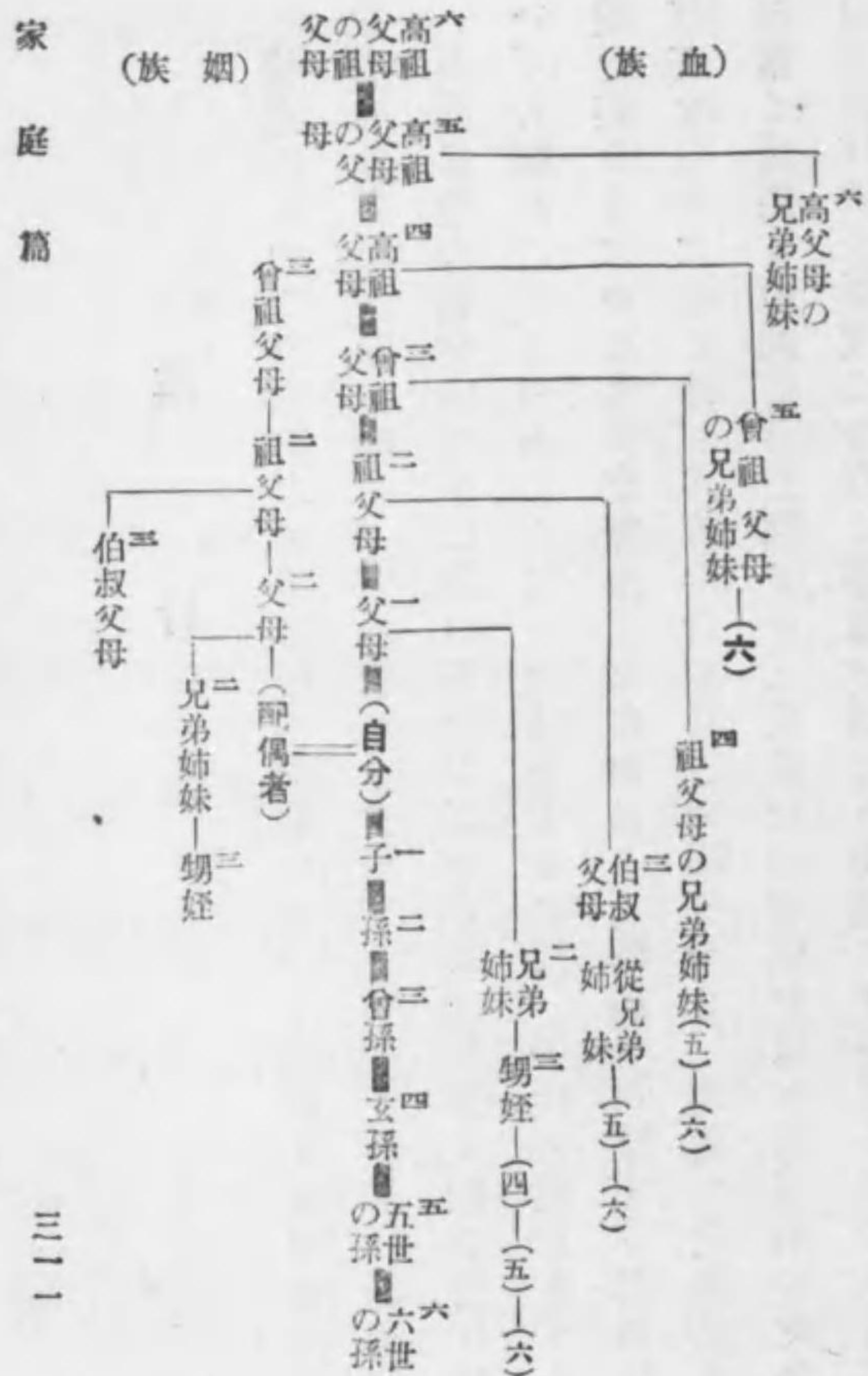
直系に對して傍系がある。傍系とは直系が分れたもので、兄弟、姉妹は傍系の二親等、伯叔父母はその三親等である。直系、傍系及び親等は姻族にも同様で、例へば配偶者の父は一親等、兄弟、姉妹は二親等、伯叔父母甥姪などは三親等である。

我が國に家を重んずる美風があるが、その心は一族一門を重んずる心となつたもので、親族の交情の厚いことも、また我が國の美風として誇るに足るものである。

親族の交情の深いのは親子の愛情の厚いのをおしひろめたものとも見られる。親族の中には職業もちがひ、貧富の差もあり、地位の高下もあるけれど、同じ祖先の子孫であることを思つて、吉凶禍福を慶弔しあひ、同情を寄せあつて暮して行かねばならぬ。富んだものは貧しいものを助けるのはよいが、貧しいものゝ方から富んだものに對して、親族であるからといつて多くの要求をするやうなことは、親族の間に不和を起す原因となるから深く慎むべきである。

血族
配遇者
親族表

血族は夫婦によつて生ずる。夫婦は人倫の始めであつて、家系を永遠につけて行く上からいつても、一家の平和繁榮の上からいつても、一家の根本となるものであるから、配偶者を選ぶのは一時の感情にはしらず、父母や年長者の意見をも重んじ、慎重な態度を以てしなければならぬ。



生計

収入と支出

職業によつて金を得ると同時に、職業をもつて生活するために必要な金を費さなければならぬ。この収入と支出とを生計といふのである。

人間は他の動物のやうに食べて行くだけでは、人間として生きがひがない。人間としてはづかしくない生活をするには、子供の教育をするにも租税を納めるためにも、交際をするためにも、病傷を治療するためにも、又慰安を得るためにも、多くの金が必要であるから、商業に従事するものは原價と賣價との間に、二割とか三割とかの利益を取り、工業に従事するものは製作費と賣價との間に利益を取り、農業に従事するものは自家の食料以來に米麥などを作り、これを金に代へて生計費にあてるのである。

一家の生計を立てるには、どんな場合にも先づ入るべき金を計つて、それから出すべき金額を定めなければならぬ。これが生計の大眼目である。どんなに多額の収入があつたとしても、勝手氣まゝな支出をすれば、一家

生計の大眼目

物價

の生計は立たなくなるであらう。収入は少額でも節約を守り、生計の安全を計る人は、一家の安全幸福を得るにちがひない。

収入の少いもの、生計は、物價の高低によつて不安にからるゝ所が多い。だから我々は物價に注意してゐなければならぬ。物價はいろいろの原因によつて變動する。第一は需要と供給との關係である。例へば豊年で米の生産が増加すれば米價は低落し、反對に凶年で米の生産が減少すれば、米價は騰貴するのである。第二は貨幣の増減である。一國內に流通する貨幣の量が増加すれば物價は騰貴し、反對にそれが減少すれば、物價は低落するのである。

計量

次に生計上注意すべきことは計量である。一體日本人は計量の觀念が薄く、現金だこ一錢二錢でも大切にする人でも、尺度や匁目の過不足には注意が足りない。この悪い因習を改善するために、政府はメートル法を實施することを奨励してゐるので、我々は計量の觀念をもつて明確にしなければならぬ。

負債

一家の生計にしろ一人の生計にしろ、入るを計つて出づるを制し、月々多少とも支出を収入より少くし、そこに貯蓄を生まねばならぬ。しかるに若し少しでも出が収入を超過すると、負債を以てこの不足を補はなければならぬことになる。負債は一家の生計の大敵であるから、精々勉強してこの大敵を撃退する心掛が肝要である。

貯金と保険

貯金と保険とは生活の安定を計る二大要素である。貯金には郵便貯金や銀行貯金があり、保険には生命保険と損害保険との二種がある。生命保険は生命又は健康に伴ふ危険に對する保険で、これには終身保険、養老保険、傷害保険などがあり、損害保険は財産の損害に對する保険で、これには火災保険、運送保険、盗難保険などがある。

保険は契約の金額によつて、その掛金に差があるが、我れ／＼は収入に應じて信用ある保険に加入すべきである。殊に簡易保険は國家の經營するもので、掛金も少く、又共済公益を目的とするものであるから、これは最も便利なもので、奮つて加入するがよいのである。

簡易保険

家計簿

家計をうまく廻はし、餘裕ある生活をするやうになれば、生活といふものが面白くなり、愉快な家庭生活を續けて行くことが出来るが、いつも月末になつてやり繰り算段をするやうでは、日々の生活がいつも不安であり、ひいては一家の中に口争ひも出来るやうになり、遂には家庭生活を破綻にまで導くに至るであらう。家計をうまくやるには家計簿をつけるのが肝要である。家計簿によつて收支を明かにし、節約すべきは節約して出づるを制して行つたならば、數の觀念を養ふことになり、そこに不幸が起らず、やり繰りに苦勞する必要もなく、必ず生活に餘裕が出来て、貯金が殖えて行くものである。

しかし家計簿をつけるにも、二三月で止めては何にもならない。長く續けてつてこそ、次第に家計のとり方が解り、上手にもなり、「今月はこれだけ節約することが出来た」、「貯金がこれだけになつた」、「先月に比べて菓子代が多かつた」とかいふやうに、無味乾燥な數字が活きて來て、家計に對し興味が湧いて來る。又今年比去年に比べて藥代が多くなつたから、家

族の健康に注意せねばならぬとか、子供の薬代が多くなつたから、今年の夏は都合して何處かへ連れて行つてやらうとか、家計簿によつて色々教へられることが多いのである。それ故この家計簿を一家の羅針盤として一家の生計をして行けば、一家は常にゆつたりしてゐられる。

家計をうまくとるには、新婚時代の家庭を作る最初についての覺悟が最も大切である。それには先づ左の三要件を實行すべきである。第一は生活に決して見榮を張らないことである。衣食住に無駄をしないやうに心掛け、家を借りるにしても外見の體裁にかまはずに、衛生と便利さを主眼として、廣きに過ぎぬ家を選ぶべきである。食物は健康を保持し、活動の原動力を與へる大切なものであるから、必要の營養をさるためには、決して費用を惜しんではならないが、必ずしも高價な食品に營養分が多いといふわけではないから、よく食品の營養價を研究して、成るべく安價で營養に富むものを美味に調理して食すべきである。第二には合理的の豫算生活を實行することである。豫算のない生活は、燈火のない夜路を手さぐりに歩

くやうなもので、いつどんな横道へ迷ひこむかも知れない。どんな拍子で足を踏みはずして負傷しないとも限らない。そんな危険な生活をしてゐたのでは、何年経つても經濟的基礎は築かれない。百圓の月収で立派に生活して行く人があるかと思へば、二百圓三百圓の月収がありながら、いつも生活に追はれてゐる人もある。これは一に家計の取り方の巧拙によるものである。

第三には一定の方針の下に家憲を作ることである。豫算のない生活と同じく、一家に何等の方針がなく、家憲といふものがなかつたならば、到底立派な完全な家庭生活は營めない。これは新家庭を作つた結婚第一日から實行しなければならぬことであるが、改める所は追々に改めて行くとして、先づ手近のことから一つづつでも方針を立て、實行すれば、遠からず完全な家憲を作ることが出来るであらう。例へば「お互に不平を言はぬ」といふやうなことも立派な一つの家憲となるであらうし、「食事は家ですること」と決めるのもよからうし、「贈答品を廢止すること」を家憲の中に加へるも

よいであらう。その他來客の待遇はどういふ風にするとか、家庭の娛樂はどうするとかいふやうなことに、一定の方針を立て、それを家風とすることが必要である。

財 産

財産

財産には遺産を相続したのもあれば、自分で働いて貯蓄したものもあるが、何れにしてし一身一家の生活を安固にするため、又は不時の災害に備へるために必要なものである。財産は一家が將來發展の資本ともなり、ひいては一國の富強の基ともなるのであるから、祖先の遺産は減らさない様に、そして自分で働いて更にそれを増殖することを心掛けねばならぬ。人に財産がないとしたら、物質生活ばかりでなく精神生活をも不安にする。ところが金といふものは正しく得るには容易なことではない。だからその使い途については、金額の多少を問はず十分に考へなければならぬ。財産の中には土地や家屋などのやうに移動しないものと、衣服や家具な

不動産
動産

物権

どのやうに移動するものがある。土地や家屋を不動産といひ、衣服や家具を動産といふ。これは財産を二つに大きく分けた見方であるが、財産はこれだけではなく、すべて金銭上價值のあるものは皆財産である。

不動産の移動はその地方の區裁判所へ登記しなくてはならない。財産は權利關係の上から見るに、物権と債権との二種になる。

物権といふのは直接に物を支配する權利で、何人も侵すことの出来ないものである。物権には左の九つがある。

- 一、占有權 自己の爲にする考で物を所有することによつて得る權利。
- 二、所有權 物に對して完全な支配權であつて、法令の制限内で自由に物を使用し、収益し、處分することを得る權利。所有權は賣買、讓渡、交換、無主物、先占、遺失物拾得などで取得する。
- 三、地上權 工作物又は竹木を所有するため、他人の土地を使用する權利。
- 四、永小作權 小作料を拂ひ他人の土地を耕作する權利。其の存續期間

は二十年以上五十年以下である。

五、地役権 一定の目的に従つて他人の土地を自己の土地の便益、灌漑用引水、貸地通行等に供する権利。

六、留置権 他人の物を占有者が其の物に關して生じたる債權の辨濟を受けるまで、其の物を留置する権利。

七、物取特權 法律の規定に従ひ債務者の總財産又は特定の財産につき、特定の債權者が他の債權者に先だつて辨濟を受くる権利。

八、質權 債權者が債權の擔保として債務者又は第三者から受取りたる物を有し、且つ其の物につき他の債權者に先だつて自分の債權の辨濟を受ける權利。質權は當事者の意志により目的物の引渡をなすにあらざれば、其の効力を生じない。質權には其の擔保の異なるに従つて動産質、不動産質、權利質の三種がある。

九、抵當權 債務者又は第三者が占有を移さずして債務の擔保に供した不動産につき、其の債務者が他の債務者に先だつて辨濟を受ける權利。

債權

契約

債務者

抵當權は登記をしないでは、第三者に對することは出来ない。

債權といふのは特定の人が特定の人に對して、すべて契約上返済又は支拂を要求する權利である。この權利を有する方が債權者で、義務を負ふ方が債務者である。債權の發生する原因の主なるものは、契約と不法行爲とである。

契約といふのは法律上有効な二人以上の合意をいふのであつて、民法には贈與、賣買、交換、消費、貸借、使用貸借、賃貸借、雇傭、請負、委任、寄託、組合、終身定期金、和解などの契約を規定してある。

不法行爲といふのは故意か過失かによつて、他人の權利を侵した場合をいふので、この場合侵したものは損害賠償の責を負はなくてはならない。

債務者が若しその債務を履行しなければ、これを請求し又は裁判所に訴へることが出来る。債權は辨濟、相殺、免除などで消滅する。

財産は蓄積するばかりが價值ではなく、これを正しく使ふことによつて本當の價値は現はれるのであるから、義理人情に背かないやうに、社會國

家に對する務を怠らないやうにして、巧みにこれを處理しなければならぬ。

職 業

精神労働
筋肉労働

社會は複雑であつて、職業の種類も頗る多い。文明の進歩と共に分業が盛となり、精神労働をするものでも、筋肉労働をするものでも、昔のやうに農、工、商といふやうに簡単に種類を分けることは出来なくなつた。しかしどんな小さな職業にしても、何か存在する理由があるのだから、大小種々様々の業に働く人があつてこそ、社會生活が成立つて行くのである。我々は天性や健康や、その他種々の事情があつて、どんな職をやつても必ず成功するといふものではない。自分に最も適當した職業を一心不乱に勉強してこそ、成功する譯であるが、自分に適する職業といふものが、實際に於いて明らかに判るものではない。殊に青少年の時代には、自分では長所と思つてゐたことが、實際は長所ではなく後に至つて失敗したり、最初は嫌々ながら父兄の勸告に服従してやつた業が、後になつて見ると、か

職業の選擇

へつて一身一家の幸福となつた例も少くないのである。だから職業の選擇については、自分だけの考で決めないで、父兄や先輩などの意見を聞いてからにすることが大切である。

職業の世襲

今日では昔のやうに親の職業を、その子が繼がねばならぬことに決まつてはゐないけれど、職業には経験が大切であるから、永年の経験を積んだ父祖の業を世襲することも悪いとはいへない。又他人の職業は利益が多く、自分の職業に比較して見て、美しいやうに思ふこともあるものだが、その時輕卒に氣がかはつて、智識も少く経験もない職業に轉ずるのは危険である。殊に大都市の生活にあこがれて、大都會へ行けば必ず成功するものゝやうに思ひ込んで、家を棄て業を棄て、飛出すなどは最も危険なことである。

職業に貴賤なし

職業によつて人の階級や貴賤を決めたのは昔のことで、今日ではそんなことはない。職業に貴賤の差等をつけてはならない。他人の職業に對しても自分の職業に對しても、昔は賤しいものとされてゐた職業にあるからこ

て、自から卑下することは無用である。正しい道に立つて生活の方法を立て、ある以上、多少とも共同生活の務を盡してゐるのだから、それに満足して自分の業務にはげまねばならぬ。

職業の選擇

職業を選擇するには、第一は自分の利益を主眼とし、自分一人の立身出世のために職業を求めるときもあり、第二には自分の趣味の上から職業を求めるときもあり、第三に國家社會のためといふ大きな目的の上から職業を求めるときもあれば、第四には自分の性質や健康の上からこれを求めることもある。

第一の自分の利益のために職業を選ぶについては、最も時勢に適合した事業で、將來益々有望であること考へた方面に着眼し、豫め就職の準備をしなければならぬ。

第二の自分の趣味から職業を選ぶについては、特種の専門的な職業になること、自分の趣味によつて選擇をあやまらないやうにしなければならぬ。學校の教員とか新聞記者とかいふものは、何人でも出来る仕事ではなく、

それ等の業務に對する深い理解と趣味がなければ、十分な仕事は出来ないものである。

第三の國家社會のために職業を選ぶ場合にも、例へば政治家といふ業務は、華々しいと同時に趣味がなければ出来るものではないから、第二と第三の問題は大體において同一の種類と考へてもよいのである。一つの事業に従事し、これに一生を捧げやうとするには、先づ自分の趣味を冷靜に細密に考へた上で、本當に自分の行くべき道を定めるのが安全である。

第四の健康又は性質から職業を選ぶについては、仕事の程度によつては、身體の弱いものには適しないものがある。自分の健康を考へずに激務に就くと、その人は大切な生命を縮めることになり、最大不幸を招くのである。自分の性質に不適當な仕事に従事するための不利益も大なるものであるが人の性質といふものは自分にもよく解らないし、父兄にもなかく解らないものであるから、自分の性質に合はない職業に就く場合がよくあるものである。かやうに健康や性質に注意しないで、うっかり職業に就く時には、

一身を誤まるばかりでなく、社會にも迷惑を及ぼすことになる。人は自分の職業を選ぶのに、たゞ一つの理由によつて選ぶ事をせず、かやうな種々な點から十分考へて後に、將來の方針を立てることが必要であつて、若しすべての人がかやうに心掛ければ、社會の事業は今日よりも一層規律正しくなり、且つ一般の能率が大いに高まるであらう。職業の選擇は國民生活の出發點であるから、最初の第一歩において方針を誤まれば、到着點も不結果に終るであらう。

職業には訓練が必要である。それは毎日の仕事を自然に學術に合致させることである。新時代の文化生活といふものは、學術と毎日の仕事とが合致したものであるから、學術と日常の仕事と離れないやうにすればよいのである。世間の人は學術といふと非常に高尚なむづかしいもので、平凡人の手のみまかないもの、やうに思つてゐるが、これは大間違ひである。學術は實地に接近して見ると、何人にも利用の出来るものであるから、これを日常の仕事に應用して、初めて學術の効能が現はれるのである。だから

實務に従事してゐる人は、學術と毎日の仕事と離れないやうにすることにむづかしくないことを知つて、日々怠らず最新の學術を實地に應用し利用して、文明生活を營むことに努めれば、それが日常の仕事を文明化するわけであつて、日常の仕事の文明化といふのは、日常の仕事に無駄がないやうにし、能率を高くし、さうして毎日働いてゐる業務が立派な結果を生むやうにすることである。

戸籍

寄留でも、婚姻でも、死亡でも、出生でも、親權の移動でも、後見人の決定でも、すべて市町村長に届け出て初めて効力を生ずるのである。市町村には戸毎に戸主や家族の身分に關し、かやうな事を調べ、これを一定の形式で記録し、某の家は何所にあつて、どれだけの人が住んでゐるといふことを、一見して判るやうにしてゐる。これを戸籍といひ、戸籍を登録した帳簿を戸籍簿といふ。戸籍の事務は戸籍吏が、戸籍役場で取扱ふのであ

る。

戸籍は正副二通あつて、正本は役場に、副本は監督區裁判所に備へ、これによつて身分や権利も認められ、又課税、徴兵、就學などの義務も、戸籍を基本として取扱ふので、國家の行政上極めて大切のものである。だから出生、死亡などは特に届出の期間を法律で定め、相當の理由がないのにこの期間内に届出を怠る者は、科料に處せられることになつてゐる。

戸籍のある所を本籍地といひ、こゝを離れて他所に住むことを寄留といふ。寄留は自由であるが、その際新しく移轉した土地の役場に、それを届出でねばならない。これを寄留届といふ。寄留届は九十日以上本籍地以外に居住する目的で住所又は居所を定めた時に、その定めた日から十四日以内に届出でねばならない。若しこれを怠る時は過料に處せられる。

住所とは人の生活の本據をいひ、居所とは人の現に住む場所のことである。そこで寄留にも住所寄留と居所寄留との別があるが、届出の手續などは大概同一である。

本籍地
寄留住所
居所戸籍謄本
戸籍抄本

出生届は十四日以内、死亡届は七日以内に醫師の診断書又は検案書を添へて届出ることになつてゐる。すべてこれ等の手續は、法律に定められた通りに正確に行はねばならぬ。これも國民としての務の一つである。

戸籍は本籍地の役場に一定の手数料を納めて、その寫しを貰ふことが出来る。これが戸籍謄本や戸籍抄本である。

民衆讀本 (終)

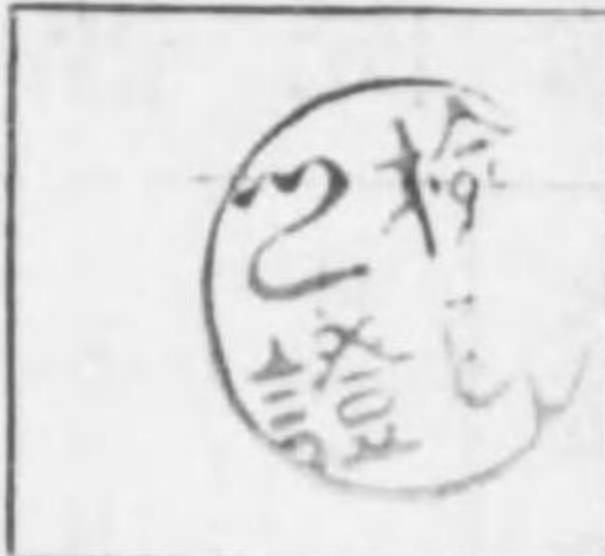
昭和二年十月十八日印
昭和二年十月二十一日發

行 刷

【民衆讀本】

正價金壹圓

著作權所有



著 者

大日本國民修養會

發 行 者

東京市麴町區麴町三丁目二番地
福 田 滋 次 郎

印 刷 者

東京市神田區中猿樂町八番地
太 刀 川 辰 藏

印 刷 所

東京市神田區中猿樂町八番地
東 華 社 印 刷 所

發 行 所

東京市麴町區麴町三丁目二番地
電 話 九 段 二 〇 九 一 番
振 替 口 座 一 二 〇 八 六 番

日 本 書 院 出 版 部

書目送呈

日 本 書 院 修 養 書 目

大町 桂 月	今井 彦 三 郎	大日本國民修養會	同	大隈 侯 爵	澤柳 博 士	後藤 子 爵	上田松浦二博士 佐藤田中志田學士
青 年 讀 本	現 代 文 讀 本	新 修 養	世界富豪 體識眞理 成功秘訣講話	働 け 働 け 飽 迄 働 け	こ れ か ら の 人 間	國 民 訓	科 學 知 識 辭 典
八 版	三 版	六 版	三 版	十 五 版	十 七 版	十 二 版	五 版
正 價 八 拾 錢	正 價 壹 圓	正 價 壹 圓 貳 拾 錢	正 價 壹 圓 貳 拾 錢	正 價 壹 圓 參 拾 錢	正 價 壹 圓	正 價 壹 圓	正 價 貳 圓
送 料 十 錢	送 料 十 錢	送 料 十 二 錢	送 料 十 二 錢	送 料 十 二 錢	送 料 六 錢	送 料 六 錢	送 料 十 八 錢

308
862

終

日本書院發行